

自治研 12

かながわ

1996

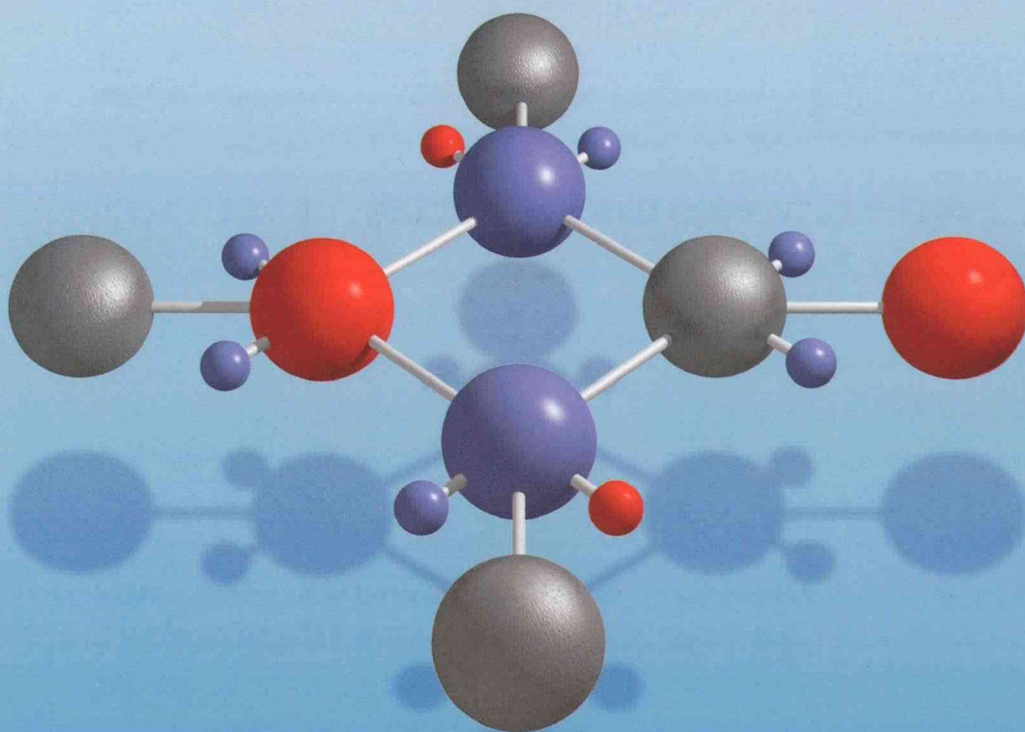
12

No.56

(通算120号)

◆ 質疑討論

◆ 総選挙の結果と今後の政治課題



社団法人 神奈川県地方自治研究センター



総選挙の結果と今後の政治課題

東京大学法学部教授 高橋 進

1、決定的変化を示さなかった選挙結果

今回の選挙をどう考えるかということ、一言でいうと、非常に見えにくい選挙でありましたし、また今でも非常にわかりにくい選挙であったと思っています。

結論から述べさせていただきますと、今回の選挙は全国を見るかぎりでは、decisive electionといわれるような、今後の日本政治に決定的な影響を与えるような選挙であったとはとても思えません。したがって、政界再編ということは、すでに話題になっていますように、これからも起こるでしょうし、またこれからもよくわからないかたちで選挙が行われるでしょう。

結論めいたものの第二点は、全国動向をみましても、まったくなにがなんだかまるでわからない。したがって、小選挙区レベルまで落として、各個別選挙区の動向をかなりこまめにきちんとみていかないと、新しい傾向みたいなものは見えにくいのでは

ないか、分析しにくいのではないかという気がしています。そのことはなにを意味するのかということ、各選挙区ごとでばらばらであるという印象がかなり強いということです。それは神奈川の1から17の選挙区を見ましても、そういう感じがします。

それから結論めいた第三の論点は、今後のことを考えると、票をとる、あるいは投票率を上げるということを含めると、なんらかの工夫が必要ではないかということがあって、その工夫をどうすればよいのかということがなかなかわかりにくいということです。

(1) 自民党前進、新進党後退の意味

まず今回、いろいろなことがありましたが、私たちの大きな関心の一点は、投票率がどこまで下がるのかということでした。

表1 96年衆議院選の投票率

	有権者数	投票率 (%)				
		男	女	平均	93年平均	90年平均
北海道	4,463,776	61.83	60.97	61.38	69.64	76.66
青森	1,165,910	62.74	63.98	63.40	64.93	74.51
岩手	1,107,606	68.21	68.54	68.38	74.29	80.05
宮城	1,777,649	57.86	57.23	57.53	66.01	75.78
秋田	962,289	68.13	66.57	67.60	74.54	80.55
山形	973,720	71.60	70.29	70.91	74.65	83.26
福島	1,624,686	66.45	66.33	66.39	73.94	80.65
茨城	2,271,939	57.36	56.69	57.03	64.79	71.12
栃木	1,521,365	57.39	56.25	56.81	67.65	72.81
群馬	1,551,019	60.20	60.42	60.31	71.09	79.85
埼玉	5,228,949	53.35	53.52	53.44	61.66	68.15
千葉	4,514,611	54.17	54.90	54.49	60.11	67.73
神奈川	6,502,899	54.50	56.52	55.49	61.08	65.83
山梨	679,821	61.59	62.94	62.28	76.19	82.73
東京	9,466,735	55.40	57.66	56.54	60.21	65.55
新潟	1,936,432	70.05	67.73	68.85	76.39	81.24
富山	890,038	63.32	62.68	62.98	77.44	82.68
石川	911,903	65.83	66.24	66.04	66.67	75.94
福井	636,173	69.50	69.89	69.70	76.47	83.79
長野	1,709,910	70.01	70.34	70.18	77.67	80.74
岐阜	1,624,065	63.56	63.97	63.77	73.85	79.51
静岡	2,896,424	60.57	62.30	61.45	70.85	77.40
愛知	5,259,396	56.04	56.69	56.37	63.38	70.69
三重	1,431,060	62.86	63.87	63.38	75.07	80.06
滋賀	971,796	62.67	62.92	62.80	71.73	77.66
京都	2,021,014	56.76	56.47	56.61	63.46	69.15
大阪	6,810,741	53.31	56.24	54.81	62.01	65.06
兵庫	4,228,661	57.22	58.60	57.94	65.72	71.15
奈良	1,111,175	62.19	62.29	62.24	70.99	77.18
和歌山	857,214	66.54	68.42	67.54	75.41	80.53
鳥取	476,770	66.55	68.25	67.45	73.70	84.00
島根	598,520	75.46	75.88	75.68	82.56	89.45
岡山	1,520,250	64.07	66.30	65.24	70.96	76.83
広島	2,230,673	58.17	59.86	59.05	69.83	74.73
山口	1,220,095	60.18	62.37	61.35	74.46	77.30
徳島	655,632	59.66	60.57	60.14	69.82	75.53
香川	808,668	58.97	60.75	59.91	68.95	77.47
愛媛	1,188,608	60.53	62.61	61.65	71.32	79.24
高知	650,920	56.61	60.09	58.48	69.78	77.18
福岡	3,783,888	57.45	59.71	58.65	66.71	74.90
佐賀	668,415	65.54	66.52	66.07	77.20	80.65
長崎	1,178,033	64.79	65.75	65.31	72.71	77.83
熊本	1,432,330	66.67	67.55	67.14	77.20	81.36
大分	963,444	67.33	69.76	68.50	75.21	82.18
宮崎	905,400	61.89	62.76	62.36	76.16	80.89
鹿児島	1,374,081	61.74	62.36	62.08	72.80	77.89
沖縄	916,016	55.66	57.95	56.84	70.82	78.46
合計	97,680,719	59.03	60.23	59.64	67.26	73.46

投票率が下がるといのは、前からいろいろなデータで指摘されていることでして、問題はどの幅で下がるかということなのですが、私の印象からいいますと、首都圏の低落傾向はある程度止まってきたという気がします。

今回、〈表1〉の「96年衆議院選の投票率」を見ていただければ歴然としますように、いわゆる非都市部、農村部といわれる県の投票率の落ち込みがたいへんひどいのです。ひどいところで15%くらい下がっているところがあります、富山県ですけれど。

おそらく今回の投票率の低下の寄与度というのは、都市部よりも農村部の方が大きいのではないかと思います。それに比べると都市部の方は、そろそろ投票率の

落ち込みの限界にきているというのが印象です。

問題は農村部の方でなぜ下がったのかということなのですが、今度の場合、小選挙区というのがまだピンとこないところがあって、選挙をやられた方の実感からいうと中選挙区より広がっているのではないかと印象なのです。従来の中選挙区でいうと、それなりの重点・地元地域のようなものがあり、そこで、ごく狭い地域で濃密な選挙を行うことができました。どうも今度の小選挙区になったために、広く薄い選挙になっていて、その上に新しい公選法の改正があって、どういう選挙をやっているのかわからない状況が生まれてきたのではないかと思います。

少なくとも私が住んでいる東京の選挙区で、私は候補者の街頭宣伝車に1回もあったことがありませんし、一体どこで選挙をやっているのかという状況でした。それによって選挙の関心が高まったというよりは、むしろ低くなったといえるのではと思います。それは、都市部では慣れている状況ですから目立たなかったのですが、農村部では従来、ごく狭い選挙をやっていたので、それができなくなったということが、選挙の投票率を10%以上落としたということではないかという気がします。

それから前回の選挙との比較になるのですが、93年の総選挙と96年の総選挙をどうみるかということがあります。政党系列がばらばらになりましたので、正直に言ってあまり意味がありません。漠たる感じですが、10月22日の朝日新聞で石川真澄さん(新潟国際情報大学教授)が指摘していることですが、前回と党勢はあまり変わって

いないのではないかという気がします。

石川さんは、前回と今回の総選挙の結果を比較するために、今回の各候補者の所属政党にしたがって前回(93年)の得票を計算し返して、今回の結果と比較できるものにつくりかえるという作業を行なっています。たとえば、前回の総選挙時には新進党はなかったので、今回の新進党の候補者が、前回は自民党から立候補していたとしても新進党に所属していたものとして読み替えて計算しています。

これによると、自民党は前回の得票数が1832万票(得票率29.5%)だったのが、今回は投票率が下がったにもかかわらず、2183万票(同38.6%)へと351万票も増やしています。一方、新進党は1925万票(同31.0%)から1581万票(28.0%)へ344万票も減らしています。ところが、自民党と新進党のあわせた保守票は3700万票で、得票数は変わっていません。

つまり自民党、新進党などの保守系無所属が大体3分の2ぐらいをとり、あとを非自民がとるという構図は、今回の選挙でも変わりはないかと思っています。ただ、自民党と新進党との割合が前回は5対5であったものが、今回は6対4で自民の方に傾斜したということです。

そして、非自民の方では、社民党が民主党の登場で大量に議員が移ったことがあって、相対的に落ち込んだということ、その分だけ共産党が増えたという印象です。社民党は、得票数で前回の413万票から今回は124万票しか得られませんでした。共産党は479万票から709万票へと大幅な増加となっています。ただここでも、「社・共」と括ってみるとその合計はあまり変化があ

りません。一方、民主党ですが、前は計算し直してみると623万票であったのですが、今回は600万票に減っています。小選挙区で152選挙区しか候補者を立てきれな

かったことも影響しており、投票率が下がったこともあって、得票率は10.1%から10.6%へと微増しています。

表2 96年衆議院選挙 党派別絶対得票率 (%)

選挙区		投票率	自民党	新進党	民主党	社民党	共産党
第1区	小選挙区	55.34	14.3	13.1	14.1	5.8	6.9
	比例区		13.1	13.4	13.1	5.3	7.6
	95選挙最大値		20.0	15.0	11.0	10.7	5.3
第2区	小選挙区	56.98	17.9	16.7	11.2	0.0	7.8
	比例区		14.7	15.0	11.9	4.3	7.7
	95選挙最大値		20.5	14.6	10.9	9.6	4.9
第3区	小選挙区	53.90	15.5	16.5	11.4	0.0	7.4
	比例区		13.3	14.0	11.7	3.8	8.0
	95選挙最大値		12.9	15.4	12.0	7.5	4.9
第4区	小選挙区	60.48	14.9	12.4	9.6	0.0	7.0
	比例区		14.4	13.1	15.1	4.5	8.3
	95選挙最大値		11.7	10.3	12.4	10.3	4.3
第5区	小選挙区	58.53	14.8	20.5	12.4	0.0	9.4
	比例区		12.5	16.7	13.4	4.7	8.5
	95選挙最大値		13.9	18.3	13.9	13.7	5.5
第6区	小選挙区	56.23	14.2	15.5	17.0	0.0	7.4
	比例区		12.3	15.0	13.4	4.8	8.0
	95選挙最大値		11.1	19.4	18.4	8.2	4.9
第7区	小選挙区	53.07	17.5	12.6	11.7	0.0	6.7
	比例区		13.1	13.3	12.9	4.1	7.1
	95選挙最大値		15.7	13.0	11.9	7.6	3.4
第8区	小選挙区	55.79	11.8	19.6	10.1	6.7	5.8
	比例区		12.1	14.1	14.7	5.0	7.4
	95選挙最大値		13.6	11.0	16.7	8.5	3.6
第9区	小選挙区	54.56	13.0	18.7	12.1	0.0	8.7
	比例区		12.2	14.0	12.9	3.9	9.0
	95選挙最大値		9.9	13.2	12.2	12.2	6.1
第10区	小選挙区	54.79	16.4	16.7	8.3	0.0	11.5
	比例区		13.5	14.9	9.5	3.6	10.5
	95選挙最大値		17.1	15.1	12.1	11.6	9.4
第11区	小選挙区	53.94	30.5	13.7	0.0	0.0	7.0
	比例区		16.4	15.0	8.6	3.9	6.8
	95選挙最大値		15.5	15.2	8.2	6.3	4.1
第12区	小選挙区	53.22	15.8	15.5	12.5	0.0	7.7
	比例区		12.6	13.3	13.9	3.9	7.0
	95選挙最大値		13.0	12.2	9.2	6.8	3.6
第13区	小選挙区	54.76	17.8	18.2	8.1	0.0	6.2
	比例区		14.1	15.7	10.7	3.6	7.0
	95選挙最大値		8.8	12.1	10.6	7.5	3.6
第14区	小選挙区	51.69	11.8	18.6	11.5	0.0	7.5
	比例区		11.6	14.9	11.6	3.6	7.3
	95選挙最大値		14.6	14.4	8.2	6.0	3.6
第15区	小選挙区	57.25	20.4	17.2	11.4	0.0	6.9
	比例区		15.6	14.5	12.2	4.2	7.5
	95選挙最大値		16.7	11.0	13.0	8.7	4.3
第16区	小選挙区	55.10	27.4	11.3	0.0	0.0	6.6
	比例区		18.4	13.5	9.0	3.3	6.3
	95選挙最大値		20.8	10.7	7.6	5.6	4.1
第17区	小選挙区	58.81	25.8	12.1	0.0	0.0	5.3
	比例区		19.0	13.6	11.1	4.2	6.5
	95選挙最大値		15.2	10.3	9.2	8.6	3.5
県合計	小選挙区	55.49	17.6	15.9	9.5	0.7	7.4
	比例区		14.0	14.4	12.0	4.1	7.7

絶対得票率とは、得票率を有権者総数で割ったものである。「95年選挙最大値」とは、95年の県議・市議・参議院比例区選挙の得票の行政区ごとの最大値を加算している。民主党の欄は「社民+さきがけ+ネット」で算出している。

ですが、どうも単純にどこがどうなったというわけではなくて、ずっとみてみますと、自民党の場合には、自分の基礎票の掘り起こしには成功したのではないか、堅い自民党票プラス前回棄権した人たちが、今回は自民党の方に投票していたのではないのかという印象をもっています。それにしても、自民党は得票率は大きく伸びたとはいえ38.6%で、小選挙区300議席のうち169議席、56%の議席を獲得しています。

石川さんの説によれば、これも「小選挙区によるつくられた多数派」ということになり、小選挙区制の問題点を明らかにしています。

(2) 各党のカンパリ度比較で 自民・共産が躍進

<表3>を見てください。たとえば第1区の、今回の投票率と各党の絶対投票率を見てください。最大値というのは、95年の参議院選挙、県会議員選、市会議員選の得票をとって各党の最大の値を絶対得票率で表したものです。これを見ていきますと、神奈川の場合、自民党の場合には第3区などがそうなのですが、小選挙区での絶対得票率が95年の選挙の最大値を超えている選挙区が12区あるわけです。その意味で、3区の場合、95年の絶対得票率の最大値である12.9が、15.5まで上がっているということは、従来の各種選挙と比べ、投票率が上がっていることと関係するのですが、おそらく自民党の基礎票プラス前回の棄権票をかき集めて、これだけ増やしていったということがいえると思います。

そのことの逆ですが、自民党の場合です

と、比例区の絶対得票率が最大値を上回っているところが7選挙区となり小選挙区より少ないのです。ですからその点をみてみますと、個人票というかたちで小選挙区はまとめきっていて、おそらく系列議員-県会、市会、町会等々の議員の人たちをまとめきって票をとっていったのが、自民党がある程度伸びた一つの理由ではないかという気がします。

つぎは新進党です。新進党の場合には新進党がもっている基礎票、たとえば、これも神奈川ですと、第3区は95年の最大値が15.4で、小選挙区の絶対得票率で16.5ですから、最大値を超えているところなのです。そのようなかたちで最大値から伸ばしている選挙区は12区あって自民党と同じですが、伸び率が大幅に超えているというところは、新進党にはあまりありません。その意味で従来通りの基礎票をまとめきっていて、それがあまり最大票を大きく超えることがなかった理由の一つは、おそらく新進党系列に投票した人たちで、今回、民主党にまわった人たちがここに何%かいると思うのです。

民主党の場合なのですが、中味が社民党、あるいはその他諸々から集まっているわけです。ここは以前から議員の人たちがもっている票に加えて、おそらく、今いった新進党からきた部分、ある意味では社民党からきた部分も考えられるのですが、私はどうも棄権票からきた部分が多いような気がします。前回棄権で今回民主党の方に入れた人たちが意外にいるのではないか、正直に言って、これは私の印象です。

それから社民党ですが、社民党の基礎票がどれくらいかという、神奈川県比例

区の絶対得票率をみていくと大体4から6のあいだに数字が収まっている。有権者が40万人とすると1%が約4千票ですから、そうしますと1万2千くらいの数字をとっているということで、この基礎票は残っているといえます。しかし小選挙区では、今回立候補しませんでしたから、立候補しない方が多かったのも、その人たちがどうしたかという、私は棄権にまわった人たちが多かったのではないかと、そして一部の人たちが民主党にまわり、一部の人たちが共産党にまわっていったとの印象をもっています。

共産党の場合には、神奈川では26万票という前回票が共産党の基礎票としては大きい数字なのですが、それにプラスして今回48万票あったということではほぼ倍増に近く、大きく票を伸ばしているのですが、神奈川での得票です。これはおそらく共産党の基礎票に加えて、社民党からきた票と、これも棄権からまわった票が多かったのではないかと思います。といいますのは、今回の共産党の場合には明らかに抗議票です。共産党がいいから共産党に投票したというよりは他の政党が嫌だから共産党に入れる、そういうかたちの抗議票がまわった、その動きがとても大きかったと思います。

単純に票の横移動というよりは棄権との絡みから考えますと、得票の出入りは、今回は非常に複雑な現象を示しているのではないかと、全国レベルでの私のもう一つの印象ということになります。

そのようなかたちで選挙結果を総計から見ると、各新聞社が投票日の前の水曜日に一斉に出してきた予想値とほとんど変わることがなかった。ということは、その時点

である程度わかることがそのままできた、というのが私の今回の感想です。

それからもう一つは「見えない」ことの意味です。「見えない選挙」ということは、政党間の違いが有権者になかなかわかりにくくなってきているということだと思います。私は「リンゴとバナナ」という話をなん回かさせてもらいました。果物屋さんで、リンゴを選ぶかバナナを選ぶかは、明らかに違いのあるものを選ぶことになるのですが、いまはそうではなく、リンゴばかり並んでいるなかでリンゴの品種で選ばなければならないようになってきているということです。「相違」でなく「差異」で選ぶということです。リンゴのなかの品種の違いをはっきり出す、これをプロフィールづくりといっているのですが、そのプロフィールづくりということに、まだ日本の政党は熟知していない。そのために政党間の違いが、ふつうの有権者たちにはなかなかわかりづらい、そこでどうするかということが問題ではないかと思います。

そのために一つの例ですが、各国の選挙では実際に限りなく差異の選挙をやっています。首相候補者をめぐる選挙になっているところもあります。たとえばイギリスでは、メジャー首相對ブレア党首というかたちで、保守党對労働党というよりはメジャー對ブレアというかたちでたたかおうとしています。またドイツの場合にも、コール首相對SPDのだれかというかたちで、そのような首相候補者を掲げることによって票をとる。それによって各党の差異を示す、識別をやすくするということがあのです。

日本の場合には一体、だれが党首なのか

わからない。党首の顔によって差異をつくるということが、日本の場合にはあまりよくできていません。みんな同じようなものに見えてきてしまう、そんなことがあるような気がします。

村山政権から橋本政権、そして解散までの基本的な構図は、自民党、新進党、社民党、さきがけとの関係は正三角形というかたちで、政党の配置図を考えていたのですが、それが今回の選挙の場合、どうも一元軸の方に落ちていってしまった。それが一元軸に落ちていったときに、どれが一番左かはわかります、共産党ですから。ところ

がどの政党が一番右かはわからない、新進党なのか自民党なのか。それで左から政党をどこかに落として位置づけていかなければならないわけですが、それがなかなか有権者のあいだででき難くなっている。そのこと自体が、政党の配置のわかりにくさというものを示しています。

各新聞の報道、あるいは政治報道をやっている人たちの間でもわけがわからないわけですから、有権者にとってはなおさらわかり難いということがあって、その識別を難しくしていたのが今回の選挙であったという気がしています。

2、神奈川の競い合いの選挙結果

(1) 自民党は小選挙区、民主党は比例区で善戦

これまでが全体的な印象ということになるのですが、ここからは神奈川の印象です。1区から17区までの要約的なことは、先ほどをお話しさせていただきました。確たることというよりは、各党がどのくらい票をとったのかを相対得票率ばかりでなく絶対得票率まで落としたものを参考にして、それから95年の3回の選挙のなかで出てきた最大値・最小値がどれくらいであったのかを<表2>に示しています。

概していえることは三つ例外があります。それは第11区（横須賀市、三浦市）、第16区（厚木市、伊勢原市、津久井郡）、第17区（小田原市、南足柄市、足柄上・下

郡）です。第11区は小泉純一郎さん、第16区は亀井善之さん、第17区は河野洋平さんですが、それらを除いてはほとんど競った選挙だったのです。第一党が第二党を大きく引き離して盤石の体制で勝ったといえるところは、この3人の選挙区だけで、そのほかはほとんど競っているところが多かったというのが、印象になるかと思います。

まず、神奈川全体のことなのですが、さきほど申し上げましたが、今回の「ガンバリ度」分析のことです。つまり最大値以上をとったところのがんばったわけですが、それがどのくらいあるかといいますと、自民党は17選挙区のうち12選挙区で最大値を超えています。新進党も12選挙区で超えています。ただし、新進党は超えている度合いでは自民党ほど大きくはありません。これは偏差値をつくって、どれくらい頑張っ

たか数字をだしてやらなければならないの
ですが、その頑張り具合が自民党の方が大
きかったと思います。

民主党は最大値を上回ったのは4選挙区

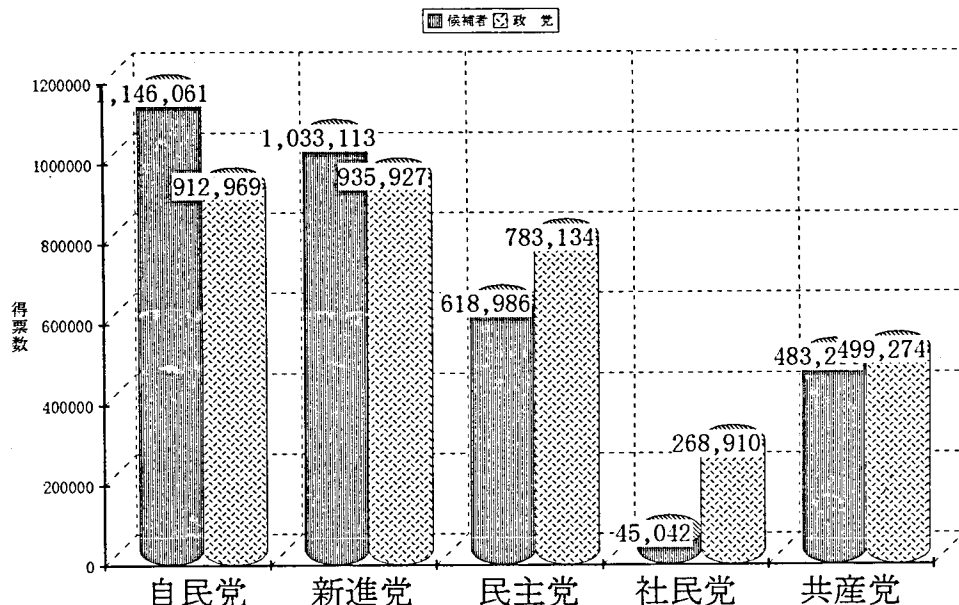
だけしかありません。民主党の最大値とは、
95年の地方選・参議院選での社会党・さき
がけ・ネットの得票を加えた票で出してい
ます。

表3 小選挙区勝利者と民主党・社民党の最大得票率と絶対得票率(%)

選挙区		小選挙区勝 利得票率	当選者	所属	自民党	新進党	民主党	社民党	民+社 最大値	勝利者 との差
第1区	小選挙区	14.3	松本 純	自民	14.3	13.1	14.1	5.8	19.8	5.5
	比例区				13.1	13.4	13.1	5.3		
第2区	小選挙区	17.9	菅 義偉	自民	17.9	16.7	11.2	0.0	16.2	-1.7
	比例区				14.7	15.0	11.9	4.3		
第3区	小選挙区	16.5	西川 知雄	新進	15.5	16.5	11.4	0.0	15.5	-1
	比例区				13.3	14.0	11.7	3.8		
第4区	小選挙区	14.9	飯島 忠義	市民	14.9	12.4	9.6	0.0	19.6	4.7
	比例区				14.4	13.1	15.1	4.5		
第5区	小選挙区	20.5	田中 慶秋	新進	14.8	20.5	12.4	0.0	18.0	-2.5
	比例区				12.5	16.7	13.4	4.7		
第6区	小選挙区	17.0	池田 元久	民主	14.2	15.5	17.0	0.0	21.8	4.8
	比例区				12.3	15.0	13.4	4.8		
第7区	小選挙区	17.5	鈴木 恒夫	自民	17.5	12.6	11.7	0.0	16.9	-0.5
	比例区				13.1	13.3	12.9	4.1		
第8区	小選挙区	19.6	中田 宏	新進	11.8	19.6	10.1	6.7	21.5	1.9
	比例区				12.1	14.1	14.7	5.0		
第9区	小選挙区	18.7	松沢 成文	新進	13.0	18.7	12.1	0.0	16.8	-1.9
	比例区				12.2	14.0	12.9	3.9		
第10区	小選挙区	16.7	永井 英慈	新進	16.4	16.7	8.3	0.0	13.1	-3.5
	比例区				13.5	14.9	9.5	3.6		
第11区	小選挙区	30.5	小泉純一郎	自民	30.5	13.7	0.0	0.0	12.4	-18
	比例区				16.4	15.0	8.6	3.9		
第12区	小選挙区	15.8	桜井 郁三	自民	15.8	15.5	12.5	0.0	17.8	2
	比例区				12.6	13.3	13.9	3.9		
第13区	小選挙区	18.2	富沢 篤紘	新進	17.8	18.2	8.1	0.0	14.3	-4
	比例区				14.1	15.7	10.7	3.6		
第14区	小選挙区	18.6	藤井 裕久	新進	11.8	18.6	11.5	0.0	15.2	-3.4
	比例区				11.6	14.9	11.6	3.6		
第15区	小選挙区	20.4	河野 太郎	自民	20.4	17.2	11.4	0.0	16.4	-3.9
	比例区				15.6	14.5	12.2	4.2		
第16区	小選挙区	27.4	亀井 善之	自民	27.4	11.3	0.0	0.0	12.3	-15.1
	比例区				18.4	13.5	9.0	3.3		
第17区	小選挙区	25.8	河野 洋平	自民	25.8	12.1	0.0	0.0	15.4	-10.4
	比例区				19.0	13.6	11.1	4.2		

「民主+社会」は小選挙区・比例区の得票率の高いものを選び加算した。

図1 96衆院/小選挙区と比例区の得票対比（神奈川県合計）



ですから少なくとも小選挙区を見るかぎり、小選挙区で選挙マシンがフル回転することが絶対の条件であって、要するに、県会、市会の系列議員がどれほどきちんと働いたかによって「ガンバリ度」というものが違って来たのではないのかなという気がします。

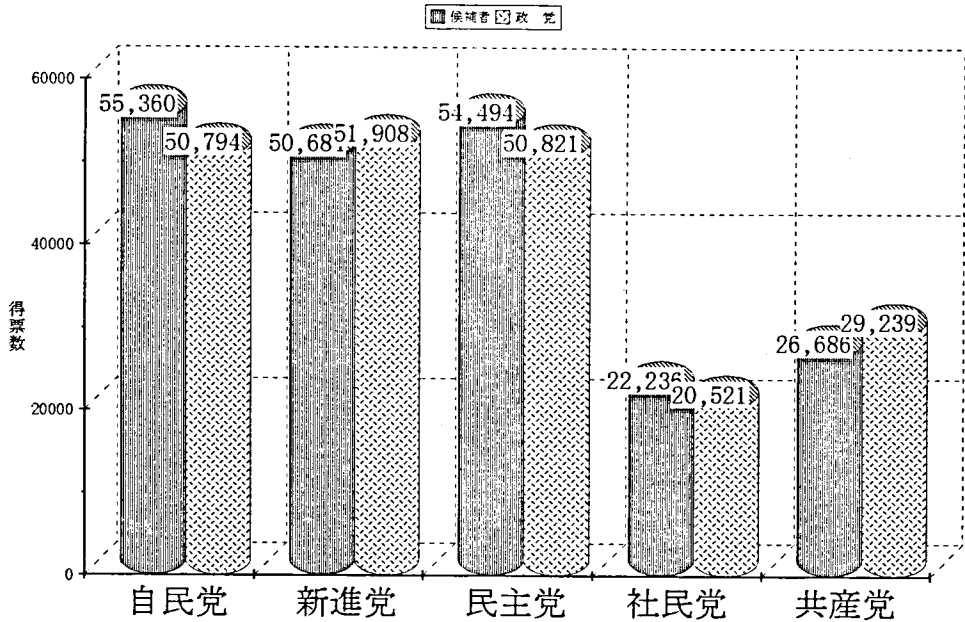
そしておもしろいのは、これをどう考えればよいのかなということなのですが、比例区と小選挙区の間で得票率が大きく違うことです。〈図1〉のように、県全体では小選挙区では自民党が圧倒的に強くなっていますが、とくに自民党の場合は第1区と第8区を除いて、他はすべて小選挙区の方が上回っています。ということは、自民党の名前で勝ったというよりは明らかに個人名、個人票で勝ったということを示しているわけです。これは自民党の一種の体質を明らかにしています、これは前からいわれていることなのですが。

新進党の場合には、それに対して6選挙区で比例区が上回っていますし、県全体の得票でも比例区は自民党より多く得票しています。あとは小選挙区が上回っているところで、これは個人票がとっているところと小選挙区との混合型ということになります。

県内の注目すべき選挙区での小選挙区と比例区の間で得票について、主な党派だけをグラフにしたのが〈図2～7〉です。

ここで民主党の場合には、比例区では小選挙区の間で得票を上回っているところが多いのです。その数は推せん候補者を含めた15選挙区のうち、13選挙区にまで上ります。たとえば、〈図3〉の神奈川4区（横浜市栄区、鎌倉・逗子市、葉山町）です。この選挙区は民主党の間で得票率は19.8%（29,967票）なのですが、比例区は25.8%（47,210票）を相対でとっていて、これは第一党なのです。ですからここは比例区の間で出

図2 96衆院／選挙区の候補者と政党の得票対比①（神奈川第1区）



ていれば勝っている選挙区なのです。このように「ねじれの関係」が見られるほど、比例区と小選挙区のギャップが大きくて、そこでは政党名効果というものが大きいという気がします。

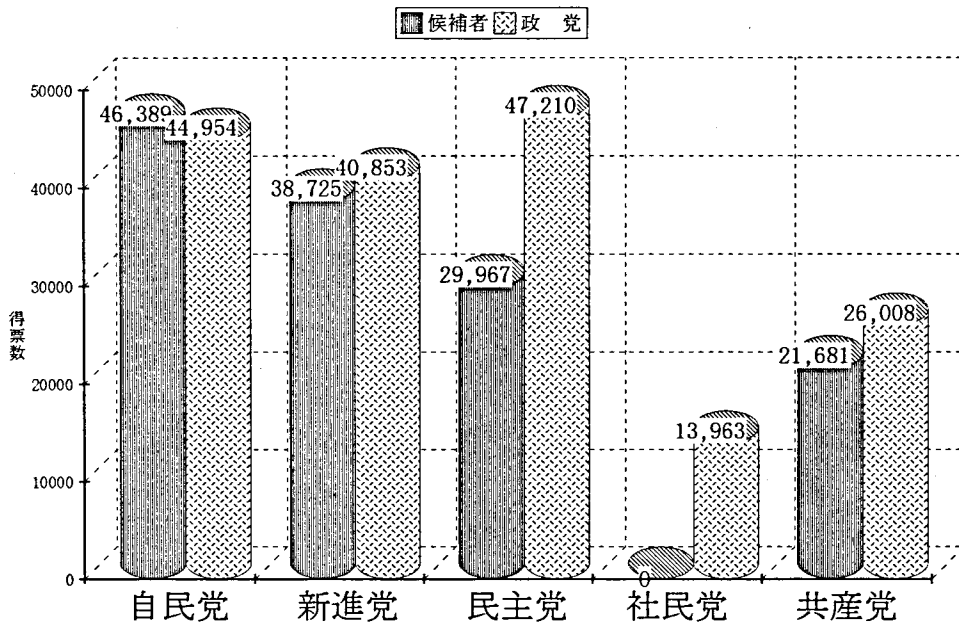
ただこれがどれほどの「新党効果」であるかには、私は疑問をもっています。つまり民主党がどれほどまでの新党として、有権者に認識されているのかは相当クエスチョンマークをつけなければならないと思います。朝日新聞が選挙後の火曜日にやった調査で、「若さ度」調査といって「なん歳の人たちに支持されているか」という調査をやったわけです。かつての日本新党は、20歳代から下がってくるのです。ところが民主党の場合には20歳代は少なく、それからだらかに右上がりになっていて、年齢の固まりが40歳ぐらいで終わっています。社民党の場合は、もっと悲惨です。社民党は20歳代がもっとがくと下がって

ってしまう。

その意味で新党ブームという場合には、新しい人を引き連れて、投票所まで来てもらって、票を入れてもらうということを新党ブームと定義しますと、おそらく今回の民主党の場合にはブームはあまり起こらなかったのではないだろうか。その意味でどこまで新党といえるか疑問です。日本の場合、新党濫造現象ですので、新党がいくつできたか、小さいものから数えますとわからなくなってしまいうという状況がありますので、新党はもう新しくないという印象があります。新党ブームはもう起こらないような気がします。

もう一つ民主党の方なのですが、比例区の絶対得票率で見ると、ほぼ9から13%のあいだで、多いところでも14%までの数字に入っています。それで絶対値で9から14、とくに14%ぐらいになるとかなり重い数字ですので、私は得票率との関係と

図3 96衆院/選挙区の候補者と政党の得票対比④ (神奈川第4区)



か、民主党の準備状況とかの諸般を考えますと、民主党は神奈川では善戦したといってよいと思います。比例区の場合には神奈川だけではないという関係もあるのかと思えますが、そのような印象をもっております。

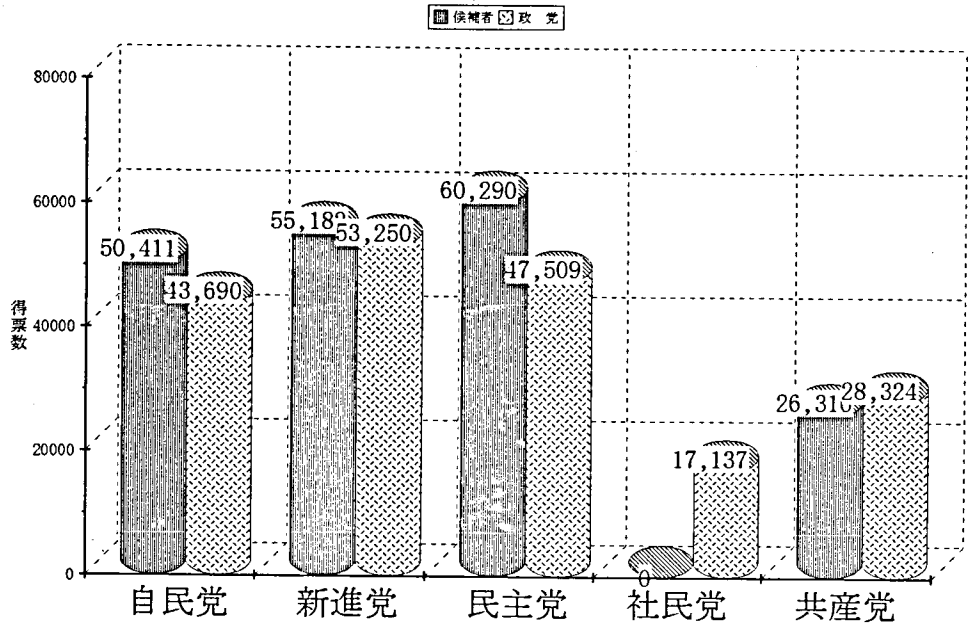
それから神奈川の全体のことでも4点目なのですが、社民党はそれなりに大きな力をもっているということです。比例区の絶対得票率で大体4から6%までの数字のあいだに入っているということは、これは最低でも1万6千票から2万5千票くらいの数字です。これがそのまま小選挙区にスライドしていったとすると、とくに競っている選挙区というのは、票の流れというのはdecisiveになる可能性がある。そういう意味で、社民党はもう少し下がるかなと予想していたのですが、諸般を考えますとこれだけの数字をもっているということをもどくようにみて、また今後どのように予想していくのかが、一つのポイントになるのでは

ないかと思っています。

そのことを示すのが表3です。これは1から17選挙区までで、「勝利」というのは勝った政党です。当選した政党がなん票とったのかの絶対得票率です。主な党派別の小選挙区と比例区の絶対得票率が、そのつぎの欄にあります。そしてそのつぎの「民+社」というのは、小選挙区と比例区のうち高い方をとり、単純にこの二つを足しただけです。そして「勝利」した得票率との差を見てみますと、これがプラスになっているのは勝っている選挙区です。数字の上では、少なくとも勝つべき選挙区です。

1、4、6、8区は、これが一緒になっていて、これと同じだけの票が集められたとすれば、この通りの票が合体して出た、というかなり厳しい条件をつけているわけです。そうすればこれだけは小選挙区で今回の選挙でも勝つことができる可能性をもっているところです。現実には6区しか勝つ

図4 96衆院/選挙区の候補者と政党の得票対比⑥ (神奈川県第6区)



ていないわけです。ここは社民党の票が意外とdecisiveだったということです。

そしてマイナスのところはそれだけ差があるということですが、その11、16、17区だけはどうしようもありません。ところが他のところは4%以下に収まっています、マイナスのところも。私は、大体マイナスの2%ぐらいでしたらどうひっくりかえるかわからない選挙区だと思ってます、これは1万票以内ですから。

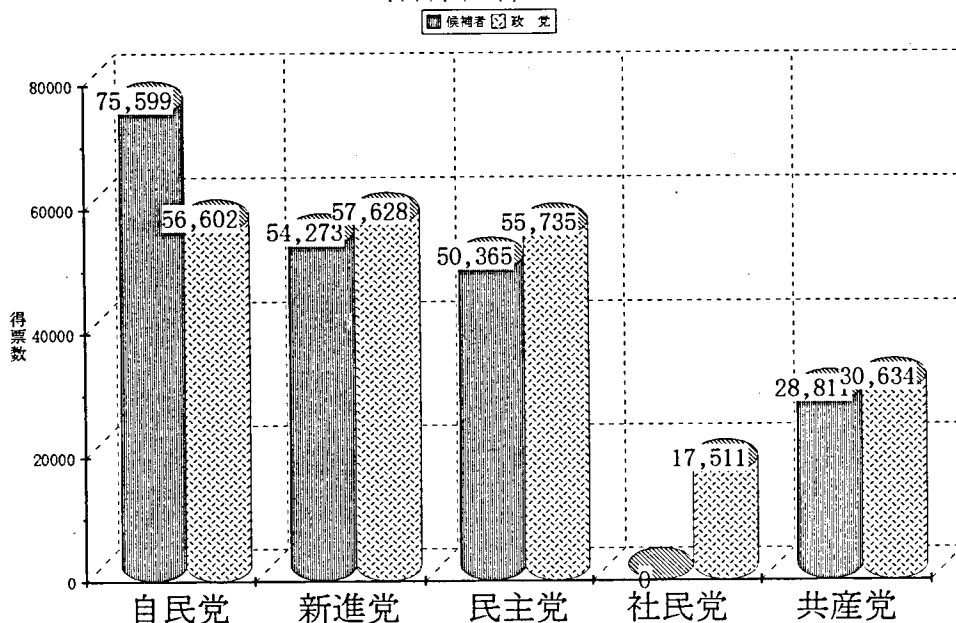
そういうところは、今後のさまざまな可能性によって、小選挙区第三党だから勝つ可能性はないという主張がこれから強くなってくると思うのですが、おそらくやり方によっては、現状の票をみる限り、単純にそうはいえないところであって、17選挙区のうち7選挙区ぐらいは、次の選挙のまとも具合、選挙への関わり具合、各党の関係づくりによっては、どの政党が勝つかわからないということができると思います。

(2) 神奈川県における第三軸・民主党の課題

そこで神奈川県は1から17区までありますが、<表2>と<図6>の神奈川県8区をみてください。なぜ、私が神奈川県8区(横浜市青葉区、川崎市高津区)に注目するかというと、民主党が95年選挙のときに最大値で最も多くとっているところなのです。そして最小値でも一番強いのです、最大16.7%と最小9.2%ですから。これが一体どうなるかということが、私の注目点ですが、民主党は比例区絶対得票率で、二番目の得票率14.7%(49,786)をとっています。ですがどうみてもこれは最大値よりは下でした。

ではその理由をどう考えるのかを数字だけから見ていきますと、その一つの理由は伊藤茂さんが立っているということで社会

図5 96衆院/選挙区の候補者と政党の得票対比⑦ (神奈川県第7区)



党に票が行ったということ。まさにその単純なことにつけるのではかという気がしています。もともと最大値は、ネット、プラスさきがけ、プラス社民党の数字だったです。その数字のなかの最大値でしたので、したがって逆にいえばこの数字の、民主党の14.7%+6.7%という数字は、前回との票の計算からいけば最大なのです。この計算でみると絶対得票率で21.5%という数字がでてくるということは、やっぱり8区はそういうところなのだと示される数字ではないかと思います。

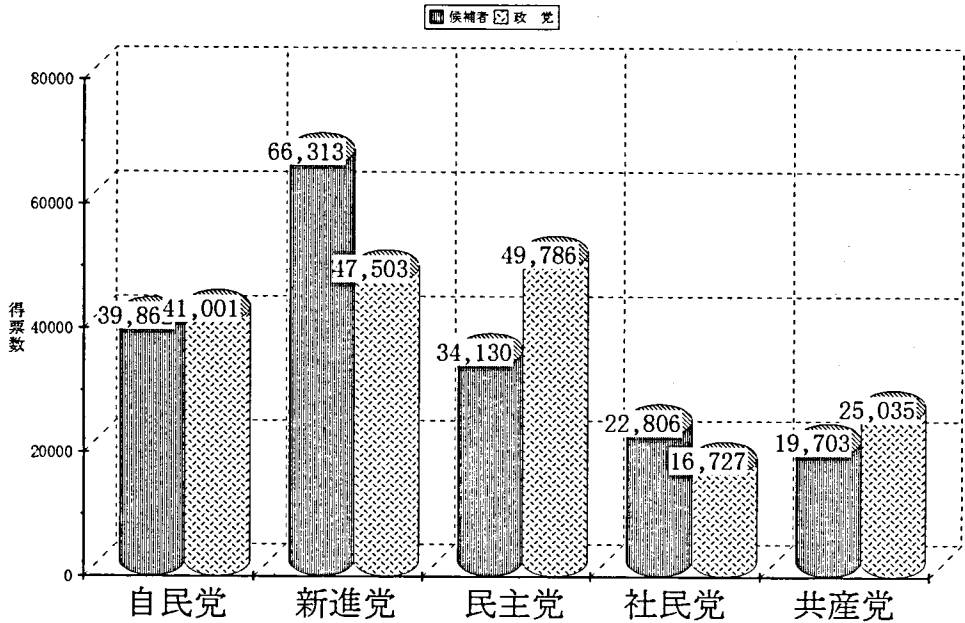
ただここは、明らかに第三党、第四党の乱立によって、私からいえば勝てるところを勝てなくしたという選挙区ですが、数字通りにいかないことが選挙ですから、そんなこと言っても故なきかなというところですので、それ以上にいうつもりはありません(笑)。

私にはまだわからないのですが、第6区

(横浜市保土ヶ谷・旭区・)を<表2>と<図5>で見ると、これは池田元久さんが勝ったところなのですが、絶対得票率は17.0% (60,290票)、比例区で民主党と社民党の出した数字は18.2% (47,509票)でした。18.2と17.0という数字があって、これをどのようにみたらいいのかわからないのですが、社民党の比例区で出ている数字(17,137票)の大部分が小選挙区で池田さんに回ったのかなという気がします。

さらに注目すべきは第1区(横浜市中・磯子・金沢区)で、<図2>のように自民・新進・民主の三党がまったく横一線に並んでいます。わずかの差で民主党の佐藤謙一郎さんが、自民党の松本純さんに敗れています。今後はわかりません。第7区(横浜市港北・緑・都筑区)は、<図5>のように、小選挙区では自民党の鈴木恒夫さんが返り咲きをはたしましたが、比例区では、自民・新進・民主の三党は2,000票

図6 96衆院／選挙区の候補者と政党の得票対比⑧（神奈川第8区）



さのなかで並んでいます。また、12区（藤沢市、寒川町）は葉山峻さんが市長をやっているが今回は比例区にまわりましたので、小選挙区は自民党の桜井郁三さんが勝ちましたが、比例区では民主党がトップに立っています。

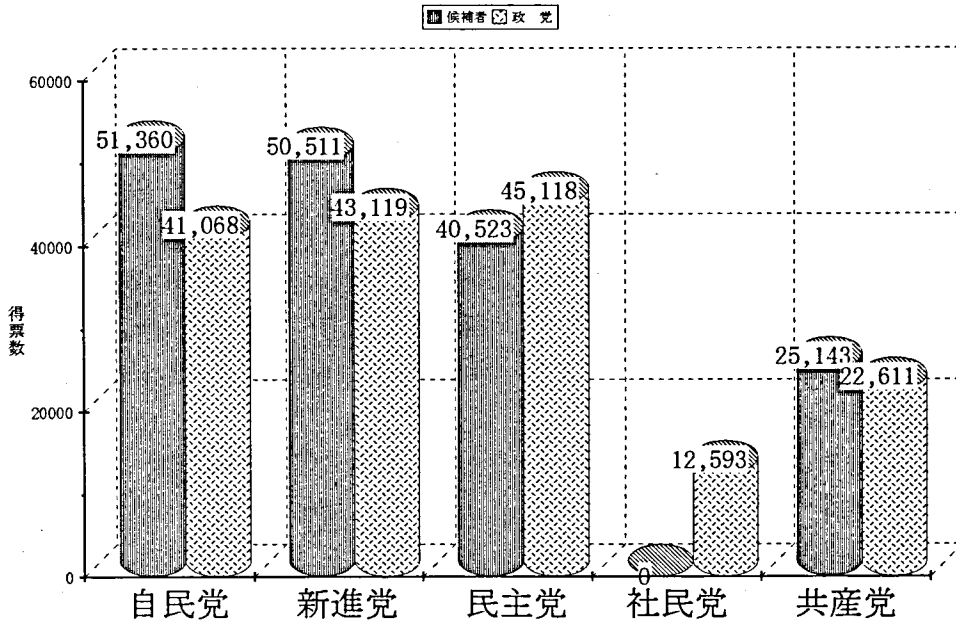
神奈川の場合は、今回11区、16区、17区は除いて、小選挙区で一番多くとったのは5区（戸塚・泉・瀬谷区）の新進党20.5%、15区（平塚・茅ヶ崎市、中郡）の自民党の20.4%という数字なのです。逆に小選挙区でその政党が勝つ数値内に入るのは、大体絶対得票率で15%ぐらいだと思うのです。15%から20%までのあいだを、たとえば政党名だけで伸ばせるだけのポテンシャルを民主党がもつかどうか、相対得票率からいうと35%ぐらいから28%ぐらいのところまで、民主党の名前だけでいくことができるかどうか、一つの判断材料になる気がします。おそらく最適なものは、個人票

プラス政党効果というものがあって、その二つが合体して相乗効果してプラスになるということなのです。

逆にいうと、個人票で伸ばすというよりは、当面は党の存在感をつくっていった、比例区で候補者をだしていくことをしなせんと、小選挙区でも勝つというのは、民主党の場合には難しいのではないかと。それに小選挙区で自民、新進がドブ板でやっているところへ第三党が入っていても、よほど地元が異常でない限り、同じことをやってもいろいろな意味で埋没してしまう可能性がある。民主党の場合には、候補者がどういう経歴で出たかを見なければなりません、その点で大幅に伸びるとするのは期待できないという気がします。その意味で民主党の存在感をどう考えていくのかということの方が、数字をみていくと手取り早いという気がします。

民主党の比例区の絶対投票率をみていき

図7 96衆院/選挙区の候補者と政党の得票対比⑩ (神奈川第12区)



ますと、ちょっと岐路に立たされるかもしれないなと感じます。といいますのは百貨店型にしようという誘惑を感じさせる数字です。百貨店型にすれば自民・新進の二つの政党と同じぐらいに大きくしようという誘惑がくる数字ということです。

社民党のこの数字、4%から6%というのは、私は専門店にしなければ生き残りは無理だと思います。社民党がもっている重点政策をいくつかにしぼり込みをかけて、そこで協力するなら協力するという考え方をとっていかない限り、専門的な行き方にしないと生き残りは難しい。そういうところで党の存在感を示していかざるをえないのではないだろうか。ただそのときに、どちらかという社民党の方で、百貨店的なものが規模が小さくなっていった専門店化を迫られているということです。

民主党の方は専門店的な発想が強いところに、百貨店化への誘惑に直面している。

その「ねじれ」みたいなものをどうするか。同じような百貨店が三つあっても、新宿があれば別かもしれないですけど(笑)、神奈川で三つつくっても、全国で三つつくっても、どれだけお客さんが集まるかはちょっと別問題としてあります……。

その意味で政策上の存在感をだせないのであれば、党の体質における存在感をだすことは十分に考えられますし、ですから従来のことばを使うと組織論を大幅にどう変えていくのか、他の政党との違いをだしていくのかが、決定的なファクターのような気がします。

3、政治の再生にむけた課題

(1) 都市型政党へ争点化をめざした 政治システムを

選挙の分析では、細かいところはいろいろあるのですが、私の数字だけによる印象論はこれだけにさせていただいて、最後にこれからの展望についてお話しさせていただきたいと思います。

いくつかお話しさせていただく問題があるのですが、まず一つの問題は、ただちに選挙制度の善し悪しが問題になっているということです。今の小選挙区比例並立制をどうするか議論がでてくるのではないかと考えています。とくに「惜敗率」等々のことを考えますと一体どうなるのか、あるいは比例区、小選挙区の両方に立てる「重複制度」をどう考えるのかがあるのですが、私は基本的に選挙制度の問題というよりは政党システムの問題だと思っています。

つまり二大政党制の方向をとっていくのか、あるいは多党制の方向をとっていくのか、それによって選挙制度のあり方は変わってくる。ちょうど今の選挙制度は、中間とかどっちにもつかない選挙制度ですから、それでどちらがいいのかよくわからなくなっているという気がします。どちらをとるかは各党で考えていただくことなのです。

私から注文しますと、もし二大政党制をとる、小選挙区制だけにするというのであれば、たとえば民主党なら民主党がどうす

れば二大政党になるのかという道筋をきちんと示さないと、有権者は納得しないでしよう。つまり現実には、優位な政党が6党あるわけですから、6党のなかをリシャッフルして、大きい政党を二つ、あるいは小さい政党を一つでもいいのですが、そのなかの大きい方の一翼を担うということであれば、かなり大胆な政界再編が行われない限り、現状ではかなわないはずですが。その道筋をはっきり示さない限りは、本当に二大政党にする気があるのかないのが問題になってくると思います。

一方で、多党制をとるというのであれば、私は民主党はどれほどの規模をもつ政党であるかを考えた方がいい。多党制のなかの一翼を担うということは、おそらく過半数をとれないということですですから、限りなく過半数に近い、今の自民党のような政党を目指すのか、それともある程度の規模をもった政党で、少なくとも連合政権をつくる「カナメ党」的なサイズをもつ政党に徹するのか、その点をはっきりさせないとさまざまなところでハレーションがおきてしまうと思います。その点をこれからどうするか課題を抱えていて、これから考えていかなければならないことではないのかと思います。

それから第二点は、先ほど「新党はもうない」ということについてお話ししましたが、これから先その政党が伸びるかどうか、あるいは現在の政治不信の状況を改善するために、なにがポイントになるのかという

ことが、いくつかもうすでに明らかになってきていると思います。

一つは現在、投票率がきわめて低い層が存在します。青年層、20歳代です。それから相対的にいいますと、投票率の高い女性層をきちんと掴みきっていないという状況と、都市部の高齢者層の人たちをどうやって掴まえていくかが問題になると思います。それは党にとりましても、また投票率を考えていきましても、やはり重要になっていくかと思えます。これはもう前からずっと問題になっていることです。

それからもう一つは、「都市型政党」とずっといつてきたのですが、ほとんどなにも実現できていません。少なくとも既存政党のなかで、都市型政党というかたちを示してくれたところは、正直いって全然ないのではないだろうか。その意味で都市型政党であることをどのようなかたちで示していくのか、そういう具体像を示していきまないと、これも名前だけに終わってしまう可能性があると思います。

(2) 新しい争点づくりを明確に

それから第三点は、新しい観点を出せないという点です。それもきわめて弱い。大きいところが、つまり保守は現状維持でいくということですから、新しい論点をできるだけ出さないようにするわけです。むしろ新しい論点をだす、争点化するということが、あるいは争点化の窓口をうまく使って、今まで保守が出さなかった問題を、争点化するということが非保守がやらなければなりません。それが宿命になっているのですが、保守が意識的に出していない論点を出

しきっていないという点、その知的インパクトというか、政策論的インパクトが強くなってきていないといえるのではないかという気がします。

ですから今回自民党が、最初に行革だということ、みんな行革に流れ込んでしまうということは、逆に自民党からみれば思うつぼです。自民党が消費税といったら、みんな賛成にしる反対にしる、その論点についてなにかをいうのは「思うつぼ」です。新しい土俵設定を行うのが政党間競争ですから、新しい土俵づくりにまで踏み込んでやりませんと、なかなか新しい展望をつくることは難しいのではないかという気がしています。

たとえば今回の場合、なぜ今年9月に、橋本政権が沖縄の問題をあれほど急いだかといえば、明らかに選挙問題にしたくないということが見え見えだったからです。ですから非常に一般的なかたちで「日本から米軍基地をなくしましょう」という問題が争点になれば、現実になんか可能かどうか別にして、自民党以外の政党に票が流れていく可能性がでてくる。それだけは回避したい。そのために9月にああいうことになったのです。基地をどうするかが争点になったのは、おそらく沖縄ぐらいのものです。

そういう意味で自民党の方は新しい争点はできないようにするというか、争点とならないようにやっているということがマスコミを含めてあまり報じられてはいません。なんとなく自民党の方でつくった争点のなかで、土台づくりが流されていくという傾向が強まってきているのではないか。その意味でも自民党は、長期的な争点はつくらないのです。短期でどうやりくりするかで

す。55年体制のときもそうでしたけれども、将来どうなるかは出してこない。とくに外国から見ると、なにがなんだかよくわからないのです。

今、ドイツだと、2100年にドイツをどうするか、世界のなかでドイツをどうするかが、長期の問題です。東の問題をどう解決していくかというのが、ものすごい大きな問題になるわけです。ただ、短期で来年あたりになにをやるかという、日本とあまり変わりません。逆に対立をみせようとするときに、長期の観点でたたかう。コール首相が短期の問題を持ち出しくるときに、SPDは長期の問題をもってくるとか、時間の長さ、タイム・スパンの取り方によって左右できることになると思います。

(3) 本格的な市民社会論の検討を

新しい論点とはなんなのかということになると、それはいろいろいわれていますが、一つは世界的にみてCivil Society、市民社会の問題が決定的に重要になってきているという気がしています。ほとんどの先進国でこの問題が議論されている、されはじめています。そのなかで意外に議論していないのが日本という気がします。そのなかでデモクラシー化の新しいプロセスとして、もう一度市民社会論というものを考えていく必要があるのではないかと思います。

農村に住んでいるから市民ではないというようなことがまかり通る、少なくとも全国紙の記者がそのようなことを聞いてくるというのはなんなんだ、「社会部記者ももう少し勉強してください」というようなこともいいたいくなります。その意味での定着

度を考えますと、「市民」ということば、「市民社会」ということばを再検討することが必要なのではないかと思います。

それと絡んで、なぜそういうことがいえるのかといいますと、従来の市民社会論というのは、はっきり言えば、「一国市民社会論」なのです。これから先の段階で、名称でいえばグローバルとかトランス・ナショナルということがいわれていますが、そのように国境がかぎりなく低くなっていく状態で、市民社会がどれだけパワー・アップしていくのが大きな問題になってきています。その場合に従来のものをどのようにして乗り越えていくのかということが、やはり非常に大きな課題です。

新しい争点をつくるといったときの従来の指針では「天下国家」だったのです。安保などの大問題があって、それをどうするか、賛成か反対かというなかで来たと思うのですが、そのなかにいわれる生活者という観点はなかったのです。どういうかたちでそれを新しい論点にするようなビッグなグランド・デザインにつくっていくかというところがなかなかできていなくて、したがって今回、生活者ということばがたくさん飛びかいましたけど、具体的なプログラムはどうするかはほとんど出てきていない。その出し方に、「天下国家」でなければグランド・デザインではないという考え方がまだ残っていて、その意味で政治のシステム、パーティ・システムは今、再編過程にありますけども、ぼくはそれは政治文化の問題だと思うのです。政治文化はなかなか変わらない体質ですから、そういうような体質だけは変わらないで、今も続いてきているという気がします。

つぎに、日本の場合は政治制度革新、政治制度のイノベーションが決定的に重要になってきているということです。

日本の場合、とくに不思議なことは、制度的なイノベーションと政策的なイノベーションが別々に進行しています。行革の問題は省庁の統廃合の問題になっていて、なんのためにそれをどうやるかがまったく聞こえてきません。

逆に分権化は政治制度革新というところまで走っていて、政策的な革新というところがはっきりと見えてこない。制度と政策の革新がばらばらになっているところを、これからどうやって変えていくのかが必要なのではないかと思います。そうしないと、きちんとした政治設計というのはできていかないと思います。その点のパワー・アップをどうしていくのか課題だと思います。

今いった二点は、現状の小選挙区選挙でははっきりいって役に立たない。むしろそういうことを政治の世界でいうことがおかしいというような、異った意味での小選挙区ドブ板ファシズムみたいなものがまかり通ることになりますと、これから大変なことになるのではないかという気がします。

といいますのは、別に共産党の悪口をいうわけではありませんが、今回のProtest Vote（抗議票）というのはかなり危険な数字じゃないかという気がします。今回は共産党で、左の方に流れたましたが、もし右の方に抗議案を吸収する政党があったとしたら、私はそこに流れていく可能性があったと思います。有権者の5%ぐらいがそっちに行った可能性があったと思います。そのような状況がでてきたときに、一体どうするのかというようなことも感じていま

す。その意味で先ほどいった選挙を含め、政治の土俵づくりを固めていきませんと、これからは、おかしなことになるのではないかなという気がします。

これは私がいっていることではなくて、永田町の政治部記者たちがいっていることですが、一つの有力な説として、次の選挙が近いのではないか、早い人では一年以内という。政治部記者は本当にそうだというのではなくて、自分たちがそうさせたいという意味を込めていっているわけですから、本当にどうなるかはわかりません。

少なくとも今度の選挙はなにかを決定的に決めたというような選挙ではないですから、その意味での、新しくなにかを決めるという意味での選挙にたいする重圧はでてくるという気がしています。記者たちが考えるように意外と早いのでは、というのが私の正直な印象です。

それに連動するかたちで、おそらく政界再編というものがおこるでしょうし、そのターゲットになっているのが、いわずもがな新進党ということでありまして、新進党が現状のままでいられるかどうかは本当に疑わしい。マスコミが分裂させたがっています。新進党のなかにいる人たちが本当に分裂させたがっているのは別にそうなっていますので、そのようなことも考えられないことはないということです。

(4) 市民が主役となる政党のあり方 —分権の党へ

いままでの革新政党は、まず基本に、思想とかイデオロギーがあって、それで統一した全国政党をつくってきました。いまで

は、イデオロギーで全部縛って、政党が多く
の支持をえるとはかぎらないと思いま
す。総評・社会党ブロックがなぜこうな
ってきたかという、その手法ではやはり
内部ですら固めきれなかったということ
があるのです。

政党としての機能と、政党の核をなす部
隊が当然必要になってくるのではないの
でしょうか。そうすると、いろいろな市民運
動のみなさんが政党を支持するとか、政策
でもって集まってやってくるというの
があると思うのです。しかし、それが全国政党
としての一つの方向をどうするかという部
隊になるのではないと思うのです。それが
もしよくいわれている連携・連帯と、その
ときの政策によって離れたりわかれたり
と、二大政党的な方向へいけるのか、
いわゆる日本の政治を変えていく力にな
るのかということ、私は疑問視している
のです。

そこで政党のあり方を考えるとき、一つ
は組織とか運動のあり方なのですけれど
も、思い切って分権化してしまう、つまり
全国一律同行は無理なんです。一本化でき
るところは一本化する。できないところは
できない。これはやむをえないでしょうし、
一本化できないということの意味は、競合
的共存しかできないわけです。それを認識
して、いろいろな側面でやらざるをえない
のかなという気がします。

そのときに競合的共存を一本化する方向
にいくのであれば、それをまとめるのは政
策しかありえないでしょうから、それを全
国でどうこうするという場面も考えられ
るでしょうから、地方のいろいろな焦点に
沿ってやっていくことがありうるのでは
ない

かと思います。そこで私は、広い意味での
Social Democraticも、同じ民主党の範疇
で、長い目でみるとほとんど論点は二つに
固まっていると思います。

一つは、資本主義社会のなかでしか生き
られない、これから社会主義社会へ移ると
いうことはまず考えられないということ
を前提とすれば、完全規制緩和とか、完全
に市場だけに頼るのが本当によいことな
のかどうか、大きな論点になるような気
がするのです。そのときに社民党がもう少
し早く気づいていれば、少しは違ったか
たちで論点をつくりだしていたと思う
のですが、そのことがないままに完全市場
主義とかマーケット万能主義のよう
なまままで押し切られてきました。その
点に関しては、自民党は中で、いろい
ろな派閥をもっているから問題な
のですが、市場の問題をどう考えて
いくのか大きな問題だと思っています。

そしてその問題の文脈のなかで、福祉・
高齢化の問題も考えていきませんか、
非常に惨めな福祉の方へ走っていく
可能性があると思うのです。ですから
逆にいうと、今までではないような
感じで、「公」の概念をどう組み替
えるかだと思っています。今までの
公は、官僚が出してきたものが公
でしたから、それを市民サイドの方
へもってきて市民サイドのなかで
公をつくりだしていく。そのこと
を踏まえるようなかたちがより
大きな論点になって、そのとき
にいろんな問題で政策をどうする
かに入り込める媒介変数が「分権」
だと思っています。

あらゆる政策分野で分権化は入
ってくるでしょう。たとえば基地
問題だったら分権問題は、中央と
沖縄の二重構造になる可能

性があるわけです。そういうとこまで分権化を考えていかなければならないのではないかという気がしています。ただ私は正直に言って、分権化の問題を国会議員の先生方がどこまで真剣に考えているか疑問に思っています。

分権化がすすむということは、地域に権限を移すということになります。そのときのローカル化の仕組みを一体どのようにつくっていくかということを考えておかないと、これから先の日本の場合、とくにハレーションがいろいろな形で出てきてしまうでしょう。そのためには、全国一律は不向きな感じがしています。

たとえば、夏休みなどの休日を、県をブロック化して変えてしまう。土曜日、日曜日かが決まっていて、土日しか行けないから混雑してしまうわけです。平日に休日に移してしまうとかしたら、旅行地に行ってもそんなに混むわけではない(笑)。それに時差かけることだって十分考えられます。少なくとも、学校を週休二日制にするのだったら、なにも土日にする必要はないと思うのです。それくらいのとこまで分権をやって、ばらばらになるところまでやってみないと、これから先はもたないのではないのかと思います。

もう一点は、神奈川にいとあまり感じない話なのですが、これから先、東京首都圏部は意外に地盤沈下が速いスピードでおきていくのではないかと考えています。ここで、国土の軸とか世界の軸を見ていきますと、明治以来の構造のなかで国土軸がでてきたわけですが、これが急速にアジアにシフトしていきますと、今までのメリットがデメリットに変わるおそれができま

す。そのようなことを考えると、今までのものが、プラスの遺産としてそのままあるのかを考えていかないと、これからちょっと大変の時代がくるのかなと正直いって思っています。

質 疑 討 論

司会／横山桂次先生 高橋先生の神奈川県
の分析について、現実には選挙運動に参加
された方々が来られていますので、その
方々の経験と照らし合わせて、ただいまの
ご指摘について、質問があればいただき
たいと思います。数字に基づいた傾向の指
摘ですから、現場の傾向と違うとか、そ
ういうことだったのかと思ひ当たること
が多いのではないかと思います。

高橋 全国の総括的な結果では、新進
党はほとんど小選挙区と比例区で大体一
致した数字をだしています。自民党が小
選挙区で大きく比例区で小さい。民主
党が比例区で大きく小選挙区で小さい。
そういう傾向が今回の選挙結果では出
てきました。民主党の場合に難しいの
は、どちらが基本的な力なのか。小選
挙区でやる以上小選挙区の方だといわ
れればそれまでなのですが、152名し
か立候補できなかったわけであり、候
補者を立てれば比例区をどこまでとり
きれぬのかはよくわかりません。

M氏 神奈川の民主党はほとんどの選
挙区で立てました。ですから、小選挙
区でとれた数字と民主党名（比例区）
でとれた数字は、いつも二つ出ていま
すからどちらでとれるかはわからない
のですが、地方にいれば候補者を出さ
ないわりに、民主党はとっている感
じがあります。民主党と社民党を足し
ても届かない選挙区が11、16、17
区とあり、自民党が強いから出さな
かったか、出せないことによってまた
民主党のとり分が減ったのかという
問題には、政党のもつ

力にはかならず候補者の力があるとい
うこともあります。そこを抜き取って
民主党の力だけをみるとどうなるで
しょうか。

高橋 今の後者の点では、小選挙区
で候補者がいない場合は比例区で見
ざるをえないでしょう。各党の都道
府県別得票率を見ていきますと、た
とえば東北ブロック、ここでは相対
得票率で、小選挙区5.89%、比
例区が11.10%です。宮城、山形
では候補者がゼロだったのです。た
だ、全部立候補したのは北海道と東
京ですが、ここは数字があまり変わ
ってないのです。北海道が32%、
31%です。東京が22%、23%で、
上積率というのがあまり出てきま
せん。その意味で候補者の得票が
かぎりなく比例に近い数字が出て
きています。全部立てればそこま
ではいく可能性が高いといえるか
もしれません。

それと関係するのですが、候補者
の組み合わせによってどうなのかが
いえませんので、単に、小選挙区
の場合には政党うんぬんでなく、
候補者の個性の組み合わせで票が
流れる可能性が高いと思われます。
そうしますと、政党だけで一概に
あだこうだといえなくなってくる
ことがあると思っています。その
意味で小選挙区は別物です。は
っきりいってしまえば、小選挙
区と比例区は別の選挙だと思っ
た方がわかりやすいといえるの
ではないでしょうか。

一つの理由をあげると、死票に
したくないという雰囲気が生じて、
小選挙区ではど

うしても勝ちそうなところに票が動いてしまっていて、比例区ではまた別のところへという動きがでてきてしまいますので、それで比例区ではとれたのに小選挙区では落ち込んでしまうという動きはかならずでてきてしまうと思います。

横山 今のことにつけ加えれば、候補者も有権者にとって小選挙区の方が魅力というか、名前を知られているとか、運動で知っているとか、経歴がどうだとか、そういう魅力がかなり加味されるわけですから、新人ばかり並べてもその効果はあまり高くないのではないかと思います。これもかなり常識的な話なんですけども。

高橋 自民党の選挙改革のなかでは、少なくとも改革をしようとしていた人は、今回の選挙は政党本位型の選挙、政策指向型の選挙になるので、少なくともドブ板型にはなりませんといって導入したわけです。それがまったく逆になってしまった。それは明確だと思うのです。

制度改革のときにあまり議論がすすめられずに、そしていま、なぜ比例区の方が二級代議士なのか、つまり小選挙区でたたかった人が一級代議士で、比例区に回ると二級代議士になるというのが、なにに根ざすのか、正直いって私たちも説明できないのです。

ヨーロッパ、とくにドイツの場合では、比例区の方が大体一級代議士になっていて、それ以外の人たちはそうではないとなっていますから、日本の場合はまったく逆になります。そうすると一体それが日本政治のなにに由来しておきているのか。選挙というのは、限りなく中選挙区、大選挙区の地元を対象にして行うのが本当であっ

て、全国区のように地元のないところで行うのは選挙でないという感覚なのでしょう。

横山 そういうことになると日本の土着性になるのですかね。

K氏 いや働き方の勘違いなのですよ。小選挙区で、現場で票とりに努力してとった人と、比例で他人の票で当選した人みたいな感じです。毎朝駅前で朝立ちをしっかりとやっている人は一生懸命努力している人という考え方があるのです。それがサラリーマンからみれば努力している人に映る。本を読んだり議論したり、机の上で政策を書いたりするよりも、票をとるために一生懸命動く、汗流して働くというイメージが小選挙区と比例区の違いだと思うのですが。

高橋 でもそうすると、選挙運動本位主義みたいになってしまう。

A氏 いや、挨拶回り本位主義です(笑)。市民がそれを求めている。与えられているだけでなく、一級・二級、Aクラス・Bクラスという、新聞を読んだときにやはり自分のなかにもそういう感情が残っている。新聞読んでおかしいとも思わずに、そうだと思ってしまうような感覚です。

横山 政治というのは、ある意味ではイメージを与えるものであるにもかかわらず、民主党のイメージはよくわからない。前にでてきた日本新党はぶち壊しをしたから、民主党も新党として信用できないというイメージもありますよね。そのことで個人の方に従うということがあると思います。

高橋 おそらく東北ブロックで、自民党の候補が、毎日朝立ちしても次点になって

惜敗率でも復活しないという選挙区で、ほとんどなにもしなかった民主党が11%とり、少なくとも比例区で一人は通してしまうということになると、一体それはなんだという……。ですからそのような行為が、どこまで政党支持とか投票行為に結びついているのかは、若干疑問です。

横山 こんなことをいってもしょうがないのですが、選挙法を改正するときに社会党は批判者もかなり出たけど、賛成したでしょう。あの段階でわれわれは新しい選挙法がどういうものかを検討してみることはなかったけれど、大雑把にみて選挙法を改正するのではなくて、改悪するということがわかるのです。どうして賛成したのか。あれはまさしく自民党の罠にはまったわけです。

B氏 現場の感覚でいうと、選挙法が改正されるたびに選挙がやりにくくなっています。

横山 政治改革があのように歪曲されたわけでしょう。

B氏 かつて物量作戦で共産党がたくさんビラを撒くことを規制することからはじまったビラ規制が、今度は撒いてはいけない、戸別に入れてはいけないということになった。すると選挙カーのまわりだけでビラを撒いてもしれているわけでしょう。選挙カーをまわしてもほとんどみる機会はないと思います。

横山 どんなものでも絶対それがよいというわけには……。最も重要なことは、有権者にとってそれが一番わかりやすいということがいいはずです。ですからできるだけ単純化した方がいいということです。

C氏 政治との距離感をどんどん感じさ

せるようになってるのははっきりしている。だからこの際、戸別訪問を完全に解禁して、徹底的にやり合うということがいいという気がします。

高橋 小選挙区は「戸別」がやりやすいというのが、運動員の常識になんですよ。ただ、あのかの選挙制度審議会は、選挙制度を変えることによって、政党本位になりますから、したがって政党本位で全国でいろいろなことをやれば、各政党の宣伝はできるはずだから、戸別訪問はあまりやらなくてすむというのが口実になっていたわけです。ところが現実はそのではなくて、選挙民となん回会うかということに尽きてしまいますと、前に落選していて長い間選挙運動できた人が今回勝っているのです。それは明らかに人と会う回数がその人たちは多かったということと関連しているかもしれない。

G氏 全部の選挙区のことはいえないのですが、私が携わった選挙区でいえば、自民党の人は2年前から地方議員の選挙の延長線上でやっていたわけです。民主党は最後の伸びが足りないわけです。社民党が出たということがあるかもしれないけれど、民主党は比例区よりも個人票が伸びているのですけれど、こういうかたちで票をとっても最後のところで勝てない。自民党が勝ちえたのはやっぱり徹底したドブ板なんです。1議席だとこういうことになってしまう。これに対抗するため、ドブ板に徹底するのか、そうでない支持の獲得の仕方というのは一体なんなのかが全体で問われているみたいです。

もう一つは、従来、労働組合がやっていた選挙スタイルではもう勝てない。選挙の

ときだけ集まってきて選挙をやったって、ドブ板に勝てるわけがない。ここの差をどのように埋め合わせるのか、どうやるのかを戦術的な問題として考えないところがあると思います。

高橋 自民党と新進党を足した比例区の絶対数は、ドブ板基礎票だと思っています。

A氏 候補者に出ている人が、民主党と社民党の違いが明確ではない、社会党から社民党に変わったことすら明確ではない。そういう水準から、それらを束ね合わせていくことが仮にうまくいったとすれば、棄権していた人たち、敢えて投票所にいかなかった人々を吸収する可能性はある。党のイメージとだぶらせていく以外にありえないし、これから先、ドブ板でないかたちで政治を選択してもらうためには、その方がいいと思う。

ローカルで密着した政治をやることは基本にあるのだけれども、自民党を凌駕するだけの結果を勝ち取ることは相当難しい。完全小選挙区、完全比例区のいずれの方向でいっても難しいと思う。ですから考えられるのは、党の政策のイメージ化、鮮明化ということですね。

高橋 そのとき党の中央が、党の存在感を全国一律としか考えないとすれば、そのときに各県各選挙区ごとに党の存在感を示すような活動を日常的にどうできるかということです。それをやるときにドブ板になってしまうとすれば、それはまた同じことです。そこをどう考えるかということ。中央だと全国テレビがあって、それにのっかればなんとかなるのですが、個別選挙区の話になるとそこで党の名前を知ってもらうためになにをするかということ、それこそ

ドブ板的にやるしかないということですので、その判断はケーブル・テレビをこれからどう使うかなどもでてくるのかなと思います。

横山 議論が展望の方に入ってきたのでこのままいきたいと思いますが、やはり、なにについてやるかで具体的にでてくるところは、組合運動的な地域への向かい方と市民運動的な地域への向かい方とは、かなりスタイルが違うわけです。お互いにそこがわかっていない。そこをどうするかが、課題の一つになっているのです。

今度の民主党で、ネット重点候補の選挙を手伝ってくれている労働組合の人たちの声で新鮮に聞こえたのは、「組合ばかりやっているとなりの人たちの運動がめずらしい、ものすごく一生懸命やっている」というものです。ということはそれだけ断絶していたということなんです(笑)。社民党からわかれて民主党に入ったというグループと、土井さんの社民党に残ったグループと、なぜあんなったのか、なぜあの人たちは残ったのか、なぜ民主党から出たのか、その区分けが有権者は全然できないのです。組合も二股で、股裂きです。これから淘汰されていくと思いますが、その淘汰されていく点では民主党もわけのわからないところがたくさん、民主党も例外ではないと思います。

M氏 神奈川は過渡期でしょうけど、私たちは神奈川ネットワーク運動というローカル・パーティーをつくって、政策はローカルでやることを一つの手段としてやっていますけど、国政選挙になると、今のところはつぎも民主党を担ぐだろうと思います。だからといって自分たちの運動を民主

党向けにやっついこうとは思っていません。神奈川ネットワーク運動をやっついけば、国政のときには、それが民主党に上乘せられるだろうとは思っています。それがこれからのローカルとナショナルの、政府の関係もそうだし、政党の関係もそうだろうというイメージをもっているわけです。

横山先生がおっしゃったように、労働組合でも社民党でもやっぱりローカルで運動しているわけです。それがたとえば次の国政に向かうときは、民主党に影響をあたえるか、それとも社民党に影響をあたえるかという、そのへんの見極めがない。一人ひとりのなかには、今回は民主党をやった、社民党をやったということを自分の国政のスタンスとして見極めていない、とくに神奈川の場合には。今、神奈川は社民党とか労働組合というところでは、自分たちの活動でなにをやればどこにプラスになるのか、すごく心配なんです。

横山 それは社民党なら社民党にいたとしても、労働組合の人は中央依存です。中央が方針を決めないと動けないということが、かなり深く残っている。せめて、県会でという話は、県単位で相対的に独立すべきなんだという話なんです。私はそう理解している。それはかなり前からいわれていることなんです。それができなかったところにネットのようなものができて、具体的に実際に運動をやってみたら、お互いによくわかってくるという、今そういう段階なんです。

だから相対的に組合が独立できるかということは、県政でも横浜市政でも組合が地域政治にどれだけ関わられるかという段階を経過していかないと、依然として中央に指

示されるということになるのではないかと思います。もっともネットというのは中央がないから、地域でやらざるをえないけど(笑)。

K氏 労働組合は今混迷のときにあります。とくに神奈川の場合には、社民党を含む地方議員の一定の財産とそれを支えてきた労組というのがあるわけです。それは神奈川の県政全体に影響を与えてきたし、それなりに力をもってきたといえると思います。それを私たちは俗に財産といい、財産もっていたわけです。今回これだけ混乱しても、高橋先生が分析でおっしゃったように、小選挙区で二人しかだせなかったとしても、社民党の票がでるわけです。

しかし、それをどうするかというところが、方向性が定まらないゆえに混乱が続いている。単純に二つを足してしまえばいいというわけではない。ネットのみなさんがいらっしゃってますから取えていうけど、今後衆議院が中選挙区になれば競合関係になるわけで、これは民主党の行く末が定まったとしても、利害が対立することはたくさんでてくる。だからこれはローカルで考えなければいけないことなのです。同時に中長期的にどうするかという論議を、労働組合が政党とどういう関係を保ち続けるか、どういう存在としてあるべきか、本当はその論議が先なんです。なかなかその整理ができないままなのです。

横山 政策論争が先なんですよね。

K氏 そうですね。55年体制の延長線で労働組合はもっているところがあるのですよ。それはある意味で現実的に必要なんです。それを除いて労働組合が政党を支持する意味なんて、これは私たちは実感がわか

ない。しかし、同時に制度の問題で、つまり行革の問題に民主党のなかで二つの考え方がまだ存在していて、よくよく考えてみると自民党とあまり差がない。それはさっき先生がおっしゃってた日本の行く末とか進路とかを考えたときに、一体民主党を支持することがどういうことになるのかということがよくみえません。

横山 それは相対的な問題だから、向こうがはっきりしたイメージをもたないと(笑)。そのイメージをだれが作るんだと、そういうことと関係するから。

B氏 労働組合がかつてのオピニオン・リーダーとして存在するとしたら、そういうことにたいしていなければならぬのだけど、非常に個別利害的な部分、たとえばNTTの分割反対とか、郵政の民営化反対という課題でいえば、これはなかなか一つにはまとまらない。全体としてなにを軸にするか、冷戦構造が壊れた後の軸合わせはまだはっきりしていないということだと思ふのです。日本の国際政治における位置をどうするだとか、高齢社会の問題などの個別の問題に、日本の哲学を、だれも提起してくれないからはっきりしない、選択できないということになっている。

T氏 ちょっとよろしいですか。「文芸春秋」の12月号を読んでいまして、元官房長官の後藤さんが書いていました。「小選挙区制度がはじまって、そのえげつなさとか制度の民主主義の欠陥はある。しかし、一回やってみたらすぐ直すのか。明治憲法ができて、選挙制度が行われたのは27年経っている。日本の歴史を考えても、選挙改革は2～30年のタイム・スパンで行われてきていて、20年くらいのスパンでみて、

そのなかで政党・政策の問題で争っていくような姿をつくりあげていくという、国民がそれを取捨選択するには時間がかかる」ということが一つ。それともう一つは、「やはり第三極は必要だ」と彼はいつている。ただしそれなりにまとまった単位でないと難しいでしょうと。

神奈川県でいけば、ネットとさきがけと社民党で協議する場をつくり、それなりに政策協定的なもののところまでいって、しかし、小選挙区のときには実らせることができなかった。今後もそれが実るかどうか、だれがそれなりにまとまった第三極をつくっていくのかということが、つぎの総選挙のまでのあいだに、改めて問われてくるのではないのでしょうか。先生の数字をみると、社民党と民主党が合体すれば、かなりいい勝負ができる感じがする。問題はだれが東ねていくか。もちろん私たちがやらなければならないのかもしれませんが。やっぱり旗振り役がどこかにいないと、次の選挙もまったく同じだと思う。20年くらいのスパンで、大改革が生まれてくるような気がします。

横山 質問の要旨は。

T氏 私がいいたいのは、改革がすすんでいくときに第三勢力をつくっていかないとだめなのではないかということ。はっきりいってしまえば、社民党とネットはしこりがあります。正直いって大変なしこりだと思ふのです。大変なしこりを解消していく役割が必要なのだと思っているのですが。

高橋 従来型の党というもので考えていけば一本化していかざるをえないですから、党のなかに非常にたくさんの派閥があって、党内「党」でどうこうするという組

織論をつくることはなかなか日本では考えられないです。私はおそらくその第三極といったところは、第一・第二と中味が違っているのではないかと思うのです。ですの
で一本化できてやれるのであれば、第三極の中はばらばらで、その中でなにかの
おりにまとまったり、また拡散していったり、
そういうあり方もあるわけです。それを全
国一律で同じようなかたちでまとめていく
と、非常に大きなミスを犯すのではないか
と思います。

横山 だからどうかたちで一本にする
のか、連合とか協同とかのかたちにして
いくのかは、実際に取り組んでいる人がつ
くることであって、こういうふうにするべ
きだと決めてもうまくいかないでしょう。
要するに、それぞれの方向を確認すること
からはじめないと共同歩調はとりにくい。
たとえば一つの政策について一緒にやろう
といっても、私のやり方は違うといってし
まえば具合が悪い。そういう試行錯誤がお

互いに積み上げられるのかが問題であっ
て、こういうイメージをつくるからやれと
いうことではない。地域によってはできな
いところもあるでしょうし。私は神奈川は
日本のなかではかなり可能性があるところ
だとみている。相対的に独立すべきとい
うのはその意味です。

ではここで、先生の話は打ち切らせてい
ただいて、あとみなさんのなかで議論し
たい方がおれば、ここに残ってください。
先生、どうもありがとうございました。

(終了)

(この稿は、1996年11月16日に開催された
当研究センターの「土曜フォーラム」にお
ける高橋教授の講演と質疑討論を編集した
ものである。文責は編集者にあります。)

党派別当選者の内訳	勢力 差	前 力	小選挙区					比例区					当選 者 復活
			計	前	元	新	女性	計	前	元	新	女性	
自民	239	211	169	126	11	32	2	70	50	3	17	2	32
新進	156	160	96	70	6	20	3	60	41	3	16	5	2
民主	52	52	17	10	3	4	0	35	20	2	13	3	25
共産	26	15	2	2	0	0	0	24	12	7	5	4	16
社民	15	30	4	4	0	0	1	11	7	0	4	2	9
さきがけ	2	9	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民改連	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自由連合	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新社会	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新諸派	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—
無所属	9	10	9	4	1	4	1	—	—	—	—	—	—
計	500	493	300	219	21	60	7	200	130	15	55	16	84

[資料1] 96衆院選、南関東ブロックの結果

比例区南関東ブロック 県別の得票

(カッコ内は得票率)

	千葉	神奈川	山梨	計
自 民	762,143 (32.03)	912,969 (26.07)	145,734 (36.45)	1,820,846 (28.99)
新 進	631,718 (26.55)	935,927 (26.73)	99,907 (24.99)	1,667,552 (26.55)
民 主	470,205 (19.76)	783,134 (22.37)	78,511 (19.63)	1,331,850 (21.21)
社 民	116,699 (4.90)	268,910 (7.68)	13,256 (4.57)	403,875 (6.43)
共 産	333,068 (14.00)	459,274 (14.29)	49,409 (12.36)	841,751 (14.04)
自由連合	19,145 (0.80)	49,785 (1.42)	2,826 (0.71)	71,756 (1.14)
新 社 会	46,345 (1.95)	51,356 (1.47)	5,205 (1.35)	102,906 (1.64)
計	2,379,323	3,501,355	399,858	6,280,536
県別開票率	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

小選挙区候補者の得票

(各312票以上の得票/候補)

区	候補	得票
1区	松本 純	55,360
	佐藤謙一郎	54,494
	岡部 正久	50,684
	田村キミ子	26,686
	林 由美子	22,236
2区	音 寛隆	70,459
	上田 晃弘	65,905
	大出 彰	44,184
	三輪智恵美	30,550
	松永 靖彦	5,855
3区	西川 知雄	60,360
	小此木八郎	56,700
	加藤 尚彦	41,750
	倉崎 武二	27,258
	秋田 信弘	5,426
4区	飯島 忠義	46,389
	浅尾慶一郎	38,725
	中島 章夫	29,967
	長島 一由	28,656
	宇都宮孝子	21,681
5区	田中 慶秋	81,289
	鈴木 一誠	58,732
	浅利 治	49,369
	大森 猛	37,263
	6区	池田 元久
土田 龍司		55,182
山東 昭子		50,411
堀野 祐吉		26,316
大川 敏彦		2,410
7区	鈴木 恒夫	75,599
	鈴木 照通	54,275
	首藤 信彦	50,365
	高橋 和十	28,811
	計屋 圭宏	12,258
8区	中田 安	66,313
	松崎 正策	39,862
	清水 雅子	34,130
	伊藤 茂	22,806

宇野スマ子	61 共新	19,703
佐々木健二	31 無新	1,770
9区		
松沢 成文	38 進前	72,147
小川 栄一	52 自新	50,423
小西 正典	46 民新	46,787
藤井 一夫	56 共新	33,596
高木 規	28 無新	2,788
10区		
永井 英慈	59 進前	70,276
田中 和徳	47 自新	68,892
中路 雅弘	70 共新	48,488
柴田 久史	37 民新	35,101
岩城 伸明	34 無新	2,406
11区		
小泉純一郎	54 自前	118,955
宮地 忠雄	53 進新	53,523
吉田 光孝	55 共新	27,518
秦 誠一	45 無新	4,552
12区		
桜井 郁三	52 自新	51,360
江崎洋一郎	38 進新	50,511
原田 尚武	29 民新	40,523
桑原 正一	65 共新	25,143
13区		
富沢 篤祐	56 進新	73,773
甘利 明	47 自新	72,022
小山 順子	41 民新	32,928
上田 博之	37 共新	24,895
平岡 幸雄	63 無新	8,413
清水 正法	52 無新	4,775
14区		
藤井 裕久	64 進前	83,010
中本 太衛	31 自新	52,567
鈴木 毅	41 民新	51,597
志賀 紳	60 共新	33,722
小池 康修	40 無新	4,038
15区		
河野 太郎	33 自新	84,723
池田東一郎	35 進新	71,426
富塚 三夫	67 民元	47,506
山本 一雄	51 共新	28,820
16区		
亀井 善之	60 自前	88,325
寺地 秀己	47 進新	36,295
小泉 辰一	49 前新	26,799
青井 功	48 共新	21,264
17区		
河野 洋平	50 自前	105,282
露木 順一	40 無新	59,005
斎藤 尚之	38 進新	49,419
小沢 睦夫	53 共新	21,572

比例区南関東ブロック

(左から各海組の、候補者名、新旧別、重複立候補した小選挙区と重複立候補した選挙区は重複配分。重複の途中段階では、定数と各政党の議席配分率の計、政党別の議席配分率と当の数が一致しないことがある)

党	候補	得票		
自 民	石橋 一弥	7		
	中村正三郎	7		
	井奥 武雄	7		
	新 進	佐藤謙一郎	1 (38.43)	
		生方 幸夫	1 (30.90)	
		黄石 東前	1 (38.90)	
		原田 尚武	1 (78.88)	
		加藤 尚彦	1 (33.16)	
		甘利 明	1 (37.82)	
		小此木八郎	1 (33.33)	
		田中 和徳	1 (38.03)	
		小野 賢一	1 (35.13)	
		野野 勝	1 (33.31)	
		松野 博一	1 (38.33)	
		山東 昭子	1 (33.61)	
		鈴木 一誠	1 (72.25)	
		小川 栄一	1 (39.88)	
		中本 太衛	1 (33.32)	
		松崎 正策	1 (30.11)	
		民 主	佐藤謙一郎	1 (38.43)
			生方 幸夫	1 (30.90)
			黄石 東前	1 (38.90)
			原田 尚武	1 (78.88)
			加藤 尚彦	1 (33.16)
			甘利 明	1 (37.82)
			小此木八郎	1 (33.33)
			田中 和徳	1 (38.03)
			小野 賢一	1 (35.13)
			野野 勝	1 (33.31)
			松野 博一	1 (38.33)
			山東 昭子	1 (33.61)
			鈴木 一誠	1 (72.25)
			小川 栄一	1 (39.88)
			中本 太衛	1 (33.32)
			松崎 正策	1 (30.11)
			共 産	佐藤謙一郎
生方 幸夫				1 (30.90)
黄石 東前				1 (38.90)
原田 尚武				1 (78.88)
加藤 尚彦	1 (33.16)			
甘利 明	1 (37.82)			
小此木八郎	1 (33.33)			
田中 和徳	1 (38.03)			
小野 賢一	1 (35.13)			
野野 勝	1 (33.31)			
松野 博一	1 (38.33)			
山東 昭子	1 (33.61)			
鈴木 一誠	1 (72.25)			
小川 栄一	1 (39.88)			
中本 太衛	1 (33.32)			
松崎 正策	1 (30.11)			
社 民	佐藤謙一郎			1 (38.43)
	生方 幸夫			1 (30.90)
	黄石 東前			1 (38.90)
	原田 尚武			1 (78.88)
	加藤 尚彦	1 (33.16)		
	甘利 明	1 (37.82)		
	小此木八郎	1 (33.33)		
	田中 和徳	1 (38.03)		
	小野 賢一	1 (35.13)		
	野野 勝	1 (33.31)		
	松野 博一	1 (38.33)		
	山東 昭子	1 (33.61)		
	鈴木 一誠	1 (72.25)		
	小川 栄一	1 (39.88)		
	中本 太衛	1 (33.32)		
	松崎 正策	1 (30.11)		
	新 社 会	佐藤謙一郎		1 (38.43)
		生方 幸夫		1 (30.90)
		黄石 東前		1 (38.90)
		原田 尚武		1 (78.88)
		加藤 尚彦	1 (33.16)	
		甘利 明	1 (37.82)	
		小此木八郎	1 (33.33)	
		田中 和徳	1 (38.03)	
		小野 賢一	1 (35.13)	
		野野 勝	1 (33.31)	
		松野 博一	1 (38.33)	
		山東 昭子	1 (33.61)	
		鈴木 一誠	1 (72.25)	
		小川 栄一	1 (39.88)	
		中本 太衛	1 (33.32)	
		松崎 正策	1 (30.11)	
		自 民	佐藤謙一郎	1 (38.43)
			生方 幸夫	1 (30.90)
			黄石 東前	1 (38.90)
			原田 尚武	1 (78.88)
加藤 尚彦			1 (33.16)	
甘利 明			1 (37.82)	
小此木八郎			1 (33.33)	
田中 和徳			1 (38.03)	
小野 賢一			1 (35.13)	
野野 勝			1 (33.31)	
松野 博一			1 (38.33)	
山東 昭子			1 (33.61)	
鈴木 一誠			1 (72.25)	
小川 栄一			1 (39.88)	
中本 太衛			1 (33.32)	
松崎 正策			1 (30.11)	
民 主			佐藤謙一郎	1 (38.43)
			生方 幸夫	1 (30.90)
			黄石 東前	1 (38.90)
			原田 尚武	1 (78.88)
	加藤 尚彦		1 (33.16)	
	甘利 明		1 (37.82)	
	小此木八郎		1 (33.33)	
	田中 和徳		1 (38.03)	
	小野 賢一		1 (35.13)	
	野野 勝		1 (33.31)	
	松野 博一		1 (38.33)	
	山東 昭子		1 (33.61)	
	鈴木 一誠		1 (72.25)	
	小川 栄一		1 (39.88)	
	中本 太衛		1 (33.32)	
	松崎 正策		1 (30.11)	
	共 産		佐藤謙一郎	1 (38.43)
			生方 幸夫	1 (30.90)
			黄石 東前	1 (38.90)
			原田 尚武	1 (78.88)
		加藤 尚彦	1 (33.16)	
		甘利 明	1 (37.82)	
		小此木八郎	1 (33.33)	
		田中 和徳	1 (38.03)	
		小野 賢一	1 (35.13)	
		野野 勝	1 (33.31)	
		松野 博一	1 (38.33)	
		山東 昭子	1 (33.61)	
		鈴木 一誠	1 (72.25)	
		小川 栄一	1 (39.88)	
		中本 太衛	1 (33.32)	
		松崎 正策	1 (30.11)	
		社 民	佐藤謙一郎	1 (38.43)
			生方 幸夫	1 (30.90)
			黄石 東前	1 (38.90)
			原田 尚武	1 (78.88)
加藤 尚彦			1 (33.16)	
甘利 明			1 (37.82)	
小此木八郎			1 (33.33)	
田中 和徳			1 (38.03)	
小野 賢一			1 (35.13)	
野野 勝			1 (33.31)	
松野 博一			1 (38.33)	
山東 昭子			1 (33.61)	
鈴木 一誠			1 (72.25)	
小川 栄一			1 (39.88)	
中本 太衛			1 (33.32)	
松崎 正策			1 (30.11)	
新 社 会			佐藤謙一郎	1 (38.43)
			生方 幸夫	1 (30.90)
			黄石 東前	1 (38.90)
			原田 尚武	1 (78.88)
	加藤 尚彦		1 (33.16)	
	甘利 明		1 (37.82)	
	小此木八郎		1 (33.33)	
	田中 和徳		1 (38.03)	
	小野 賢一		1 (35.13)	
	野野 勝		1 (33.31)	
	松野 博一		1 (38.33)	
	山東 昭子		1 (33.61)	
	鈴木 一誠		1 (72.25)	
	小川 栄一		1 (39.88)	
	中本 太衛		1 (33.32)	
	松崎 正策		1 (30.11)	

[資料2] 神奈川県内の得票一覧

小選挙区比例区対比表

選挙区	投票の状況			有効 投票	自民党		新進党		民主党
	有権者数	投票者数	投票率		得票数	得票率	得票数	得票率	
第1区計(小)	386,669	213,994	55.34%	209,460	55,360	26.4%	50,684	24.2%	54,494
第1区計(比)	386,669	213,994	55.34%	208,019	50,794	24.4%	51,908	25.0%	50,821
第2区計(小)	393,677	224,302	56.98%	218,508	70,459	32.2%	65,905	30.2%	44,184
第2区計(比)	393,677	224,302	56.98%	217,561	57,808	26.6%	59,153	27.2%	46,830
第3区計(小)	366,231	197,383	53.90%	192,785	56,700	29.4%	60,360	31.3%	41,750
第3区計(比)	366,231	197,383	53.90%	191,220	48,707	25.5%	51,446	26.9%	42,855
第4区計(小)	311,906	188,645	60.48%	184,882	46,389	25.1%	38,725	20.9%	29,967
第4区計(比)	311,906	188,645	60.48%	182,748	44,954	24.6%	40,853	22.4%	47,210
第5区計(小)	397,198	232,479	58.53%	226,653	58,732	25.9%	81,289	35.9%	49,365
第5区計(比)	397,198	232,479	58.53%	225,995	49,509	21.9%	66,220	29.3%	53,048
第6区計(小)	355,649	199,969	56.23%	194,609	50,411	25.9%	55,182	28.4%	60,290
第6区計(比)	355,649	199,969	56.23%	194,593	43,690	22.5%	53,250	27.4%	47,505
第7区計(小)	432,239	229,400	53.07%	223,426	75,599	33.8%	54,273	24.3%	50,365
第7区計(比)	432,239	229,400	53.07%	223,587	56,602	25.3%	57,628	25.8%	55,735
第8区計(小)	337,882	188,507	55.79%	184,584	39,862	21.6%	66,313	35.9%	34,130
第8区計(比)	337,882	188,507	55.79%	184,157	41,001	22.3%	47,503	25.8%	49,785
第9区計(小)	386,554	210,886	54.56%	205,736	50,423	24.5%	72,147	35.1%	46,782
第9区計(比)	386,554	210,886	54.56%	205,817	47,146	22.9%	54,228	26.3%	49,861
第10区計(小)	421,286	230,812	54.79%	225,163	68,892	30.6%	70,276	31.2%	35,101
第10区計(比)	421,286	230,812	54.79%	224,382	56,900	25.4%	62,808	28.0%	40,106
第11区計(小)	390,359	210,573	53.94%	204,548	118,955	58.2%	53,523	26.2%	0
第11区計(比)	390,359	210,573	53.94%	203,020	64,202	31.6%	58,411	28.8%	33,511
第12区計(小)	324,885	172,895	53.22%	167,537	51,360	30.7%	50,511	30.1%	40,523
第12区計(比)	324,885	172,895	53.22%	168,372	41,068	24.4%	43,119	25.6%	45,118
第13区計(小)	404,415	221,452	54.76%	216,806	72,022	33.2%	73,773	34.0%	32,928
第13区計(比)	404,415	221,452	54.76%	215,004	57,021	26.5%	63,428	29.5%	43,369
第14区計(小)	446,970	231,053	51.69%	224,934	52,567	23.4%	83,010	36.9%	51,597
第14区計(比)	446,970	231,053	51.69%	224,607	51,928	23.1%	66,610	29.7%	51,852
第15区計(小)	416,067	238,207	57.25%	232,475	84,723	36.4%	71,426	30.7%	47,506
第15区計(比)	416,067	238,207	57.25%	230,723	64,724	28.1%	60,321	26.1%	50,905
第16区計(小)	322,617	177,764	55.10%	172,685	88,325	51.1%	36,297	21.0%	0
第16区計(比)	322,617	177,764	55.10%	171,570	59,332	34.6%	43,636	25.4%	29,163
第17区計(小)	408,295	240,103	58.81%	235,278	105,282	44.7%	49,419	21.0%	0
第17区計(比)	408,295	240,103	58.81%	229,980	77,583	33.7%	55,405	24.1%	45,449
県合計(小)	6,502,899	3,608,424	55.49%	3,520,069	1,146,061	32.6%	1,033,113	29.3%	618,986
県合計(比)	6,502,899	3,608,424	55.49%	3,501,355	912,969	26.1%	935,927	26.7%	783,134

96年10月 (社) 神奈川県地方自治研究センター

	社会民主党			共産党		新社会党		自由連合		無所属		無効票	
	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	無効票数	無効票率
	26.0%	22,236	10.6%	26,686	12.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4,526	2.1%
	24.4%	20,521	9.9%	29,239	14.1%	2,910	1.4%	1,826	0.9%	-----	---	5,888	2.8%
	20.2%	0	0.0%	30,550	14.0%	5,855	2.7%	1,555	0.7%	0	0.0%	5,778	2.6%
	21.5%	16,827	7.7%	30,507	14.0%	4,310	2.0%	2,120	1.0%	-----	---	6,652	3.0%
	21.7%	0	0.0%	27,258	14.1%	5,426	2.8%	1,291	0.7%	0	0.0%	4,589	2.3%
	22.4%	13,887	7.3%	29,154	15.2%	3,493	1.8%	1,678	0.9%	-----	---	6,053	3.1%
	16.2%	0	0.0%	21,681	11.7%	0	0.0%	19,464	10.5%	28,656	15.5%	3,755	2.0%
	25.8%	13,963	7.6%	26,008	14.2%	2,251	1.2%	7,509	4.1%	-----	---	5,759	3.1%
	21.8%	0	0.0%	37,263	16.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5,813	2.5%
	23.5%	18,481	8.2%	33,604	14.9%	2,996	1.3%	2,137	0.9%	-----	---	6,465	2.8%
	31.0%	0	0.0%	26,316	13.5%	0	0.0%	2,410	1.2%	0	0.0%	5,348	2.7%
	24.4%	17,137	8.8%	28,324	14.6%	2,761	1.4%	1,922	1.0%	-----	---	5,293	2.6%
	22.5%	0	0.0%	28,811	12.9%	0	0.0%	2,120	0.9%	12,258	5.5%	5,966	2.6%
	24.9%	17,511	7.8%	30,634	13.7%	3,103	1.4%	2,374	1.1%	-----	---	5,744	2.5%
	18.5%	22,806	12.4%	19,703	10.7%	0	0.0%	1,770	1.0%	0	0.0%	3,917	2.1%
	27.0%	16,727	9.1%	25,035	13.6%	2,376	1.3%	1,729	0.9%	-----	---	4,268	2.3%
	22.7%	0	0.0%	33,596	16.3%	0	0.0%	2,788	1.4%	0	0.0%	5,141	2.4%
	24.2%	15,056	7.3%	34,782	16.9%	2,764	1.3%	1,980	1.0%	-----	---	5,002	2.4%
	15.6%	0	0.0%	48,488	21.5%	0	0.0%	2,406	1.1%	0	0.0%	5,644	2.4%
	17.9%	15,229	6.8%	44,087	19.6%	3,020	1.3%	2,232	1.0%	-----	---	6,382	2.8%
	0.0%	0	0.0%	27,518	13.5%	0	0.0%	4,552	2.2%	0	0.0%	5,995	2.8%
	16.5%	15,077	7.4%	26,634	13.1%	2,714	1.3%	2,471	1.2%	-----	---	7,409	3.5%
	24.2%	0	0.0%	25,143	15.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5,353	3.1%
	26.8%	12,593	7.5%	22,611	13.4%	2,158	1.3%	1,705	1.0%	-----	---	4,443	2.6%
	15.2%	0	0.0%	24,895	11.5%	8,413	3.9%	4,775	2.2%	0	0.0%	4,642	2.1%
	20.2%	14,398	6.7%	28,263	13.1%	4,857	2.3%	3,668	1.7%	-----	---	6,372	2.9%
	22.9%	0	0.0%	33,722	15.0%	0	0.0%	4,038	1.8%	0	0.0%	6,107	2.6%
	23.1%	16,132	7.2%	32,449	14.4%	3,024	1.3%	2,612	1.2%	-----	---	6,340	2.7%
	20.4%	0	0.0%	28,820	12.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5,727	2.4%
	22.1%	17,488	7.6%	31,091	13.5%	3,113	1.3%	3,081	1.3%	-----	---	7,361	3.1%
	0.0%	0	0.0%	21,264	12.3%	0	0.0%	26,799	15.5%	0	0.0%	5,076	2.9%
	17.0%	10,577	6.2%	20,347	11.9%	2,112	1.2%	6,403	3.7%	-----	---	6,151	3.5%
	0.0%	0	0.0%	21,572	9.2%	0	0.0%	0	0.0%	59,005	25.1%	4,821	2.0%
	19.8%	17,306	7.5%	26,505	11.5%	3,394	1.5%	4,338	1.9%	-----	---	10,039	4.2%
	17.6%	45,042	1.3%	483,286	13.7%	19,694	0.6%	73,968	2.1%	99,919	2.8%	88,198	2.4%
	22.4%	268,910	7.7%	499,274	14.3%	51,356	1.5%	49,785	1.4%	-----	---	105,621	2.9%

小選挙区市町村別

選挙区	投票の状況			有効投票	自民党		新進党		民主党
	有権者数	投票者数	投票率		得票数	得票率	得票数	得票率	
鶴見区	199,906	106,610	53.33%	104,193	31,171	29.9%	33,617	32.3%	19,695
神奈川区	166,325	90,773	54.58%	88,592	25,529	28.8%	26,743	30.2%	22,055
西区	62,308	35,958	57.71%	35,143	13,698	39.0%	10,815	30.8%	5,396
中区	93,148	47,315	50.80%	46,112	15,592	33.8%	11,436	24.8%	9,990
南区	158,099	87,648	55.44%	85,464	26,901	31.5%	26,492	31.0%	17,322
港南区	173,270	100,696	58.12%	97,901	29,860	30.5%	28,598	29.2%	21,466
保土ヶ谷区	157,001	87,205	55.54%	84,817	22,641	26.7%	24,604	29.0%	24,840
加区	198,648	112,764	56.77%	109,792	27,770	25.3%	30,578	27.9%	35,450
磯子区	134,093	74,105	55.26%	72,586	17,362	23.9%	17,755	24.5%	19,340
金沢区	159,428	92,574	58.07%	90,762	22,406	24.7%	21,493	23.7%	25,164
港北区	224,810	118,499	52.71%	115,425	39,117	33.9%	26,537	23.0%	25,763
緑区	115,727	62,529	54.03%	60,781	20,147	33.1%	15,783	26.0%	13,575
青葉区	191,144	108,175	56.59%	106,130	22,659	21.4%	38,286	36.1%	20,258
都区	91,702	48,372	52.75%	47,220	16,335	34.6%	11,953	25.3%	11,027
戸塚区	191,463	111,477	58.22%	108,654	24,735	22.8%	40,356	37.1%	25,054
栄区	97,574	58,968	60.43%	57,848	17,162	29.7%	11,906	20.6%	9,144
泉区	109,849	66,334	60.39%	64,792	19,391	29.9%	22,329	34.5%	13,235
瀬谷区	95,886	54,668	57.01%	53,207	14,606	27.5%	18,604	35.0%	11,080
横浜市合計	2,620,381	1,464,670	55.90%	1,429,419	407,082	28.5%	417,885	29.2%	329,854
川崎区	156,107	85,231	54.60%	83,393	28,578	34.3%	24,557	29.4%	9,305
幸区	110,293	61,696	55.94%	60,194	17,240	28.6%	20,151	33.5%	9,809
中原区	154,886	83,885	54.16%	81,576	23,074	28.3%	25,568	31.3%	15,987
高津区	137,182	71,870	52.39%	69,927	20,113	28.8%	22,729	32.5%	14,805
宮前区	146,738	80,332	54.75%	78,454	17,203	21.9%	28,027	35.7%	13,872
多摩区	145,888	77,798	53.33%	75,923	17,895	23.6%	25,724	33.9%	17,681
麻生区	103,484	61,218	59.16%	59,886	12,415	20.7%	23,694	39.6%	14,296
川崎市合計	954,578	522,030	54.69%	509,353	136,518	26.8%	170,450	33.5%	95,755
横須賀市	347,482	189,175	54.44%	183,689	106,164	57.8%	48,677	26.5%	
平塚市	195,990	110,953	56.61%	108,337	41,676	38.5%	33,836	31.2%	20,807
鎌倉市	141,685	85,820	60.57%	84,046	18,223	21.7%	17,336	20.6%	13,647
藤沢市	289,051	154,996	53.62%	150,197	45,955	30.6%	44,019	29.3%	37,297
小田原市	156,102	89,421	57.28%	87,797	39,426	44.9%	20,180	23.0%	
茅ヶ崎市	169,254	95,488	56.42%	93,219	30,737	33.0%	29,195	31.3%	20,249
足利市	47,631	28,828	60.52%	28,233	7,318	25.9%	6,097	21.6%	4,819
相模原市	446,970	231,053	51.69%	224,934	52,567	23.4%	83,010	36.9%	51,597
三浦市	42,877	21,398	49.91%	20,859	12,791	61.3%	4,846	23.2%	
秦野市	121,511	68,633	56.48%	66,950	31,690	47.3%	14,763	22.1%	
厚木市	156,431	83,389	53.31%	80,984	39,156	48.4%	17,813	22.0%	
大和市	161,930	89,294	55.14%	87,577	25,798	29.5%	34,213	39.1%	12,721
伊勢原市	74,318	42,993	57.85%	41,874	23,114	55.2%	6,988	16.7%	
海老名市	87,898	48,884	55.61%	47,854	16,885	35.3%	13,712	28.7%	7,833
座間市	92,582	48,460	52.34%	47,371	16,208	34.2%	14,543	30.7%	8,018
南足柄市	34,136	21,945	64.29%	21,581	8,344	38.7%	3,756	17.4%	
綾瀬市	62,005	34,814	56.15%	34,004	13,131	38.6%	11,305	33.2%	4,356
一般市合計	2,627,853	1,445,544	55.01%	1,409,506	529,183	37.5%	404,289	28.7%	181,344
三浦郡葉山町	25,016	15,029	60.08%	14,755	3,686	25.0%	3,386	22.9%	2,357
高座郡寒川町	35,834	17,899	49.95%	17,340	5,405	31.2%	6,492	37.4%	3,226
中郡	50,823	31,766	62.50%	30,919	12,310	39.8%	8,395	27.2%	6,450
大磯町	26,215	16,260	62.03%	15,846	6,336	40.0%	4,588	29.0%	3,099
二宮町	24,608	15,506	63.01%	15,073	5,974	39.6%	3,807	25.3%	3,351
足柄上郡	51,303	33,942	66.16%	33,369	12,885	38.6%	4,716	14.1%	0
中井町	7,888	4,966	62.96%	4,874	2,716	55.7%	823	16.9%	
大井町	12,260	7,463	60.87%	7,303	3,023	41.4%	1,243	17.0%	
松田町	10,415	6,684	64.18%	6,572	2,732	41.6%	1,102	16.8%	
山北町	11,170	8,009	71.70%	7,865	3,199	40.7%	888	11.3%	
開成町	9,570	6,820	71.26%	6,755	1,215	18.0%	660	9.8%	
足柄下郡	45,243	26,162	57.83%	25,581	12,937	50.6%	6,004	23.5%	0
箱根町	13,997	7,879	56.29%	7,748	3,919	50.6%	1,920	24.8%	
真鶴町	7,967	4,718	59.22%	4,625	2,172	47.0%	1,248	27.0%	
湯河原町	23,279	13,565	58.27%	13,208	6,846	51.8%	2,836	21.5%	
愛甲郡	34,574	19,332	55.91%	18,841	10,172	54.0%	4,385	23.3%	0
愛川町	32,031	17,588	54.91%	17,143	9,075	52.9%	4,135	24.1%	
清川町	2,543	1,744	68.58%	1,698	1,097	64.6%	250	14.7%	
津久井郡	57,294	32,050	55.94%	30,986	15,883	51.3%	7,111	22.9%	0
城山町	17,568	9,600	54.64%	9,261	4,096	44.2%	2,383	25.7%	
津久井町	23,004	12,301	53.47%	11,898	6,079	51.1%	2,913	24.5%	
相模湖町	8,127	4,928	60.64%	4,778	2,625	54.9%	927	19.4%	
藤野町	8,595	5,221	60.74%	5,049	3,083	61.1%	888	17.6%	
県合計	6,502,899	3,608,424	55.49%	3,520,069	1,146,061	32.6%	1,033,113	29.3%	618,986

96年10月 (社)神奈川県地方自治研究センター

社会民主党		共産党		新社会党		自由連合		無所属		無効票		
得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	無効票数	
18.9%		0.0%	16,289	15.6%	2,732	2.6%	689	0.7%		0.0%	2,416	2.3%
24.9%		0.0%	10,969	12.4%	2,694	3.0%	602	0.7%		0.0%	2,173	2.4%
15.4%		0.0%	4,209	12.0%	839	2.4%	186	0.5%		0.0%	815	2.3%
21.7%	3,927	8.5%	5,167	11.2%		0.0%		0.0%		0.0%	1,203	2.5%
20.3%		0.0%	11,853	13.9%	2,222	2.6%	674	0.8%		0.0%	2,177	2.5%
21.9%		0.0%	14,488	14.8%	2,794	2.9%	695	0.7%		0.0%	2,786	2.8%
29.3%		0.0%	11,641	13.7%		0.0%	1,091	1.3%		0.0%	2,377	2.7%
32.3%		0.0%	14,675	13.4%		0.0%	1,319	1.2%		0.0%	2,971	2.6%
26.6%	8,672	11.9%	9,457	13.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1,514	2.0%
27.7%	9,637	10.6%	12,062	13.3%		0.0%		0.0%		0.0%	1,809	2.0%
22.3%		0.0%	14,544	12.6%		0.0%	1,020	0.9%	8,444	7.3%	3,068	2.6%
22.3%		0.0%	8,724	14.4%		0.0%	650	1.1%	1,902	3.1%	1,747	2.8%
19.1%	13,670	12.9%	10,238	9.6%		0.0%	1,019	1.0%		0.0%	2,042	1.9%
23.4%		0.0%	5,543	11.7%		0.0%	450	1.0%	1,912	4.0%	1,151	2.4%
23.1%		0.0%	18,509	17.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2,820	2.5%
15.8%		0.0%	6,552	11.3%		0.0%	3,312	5.7%	9,772	16.9%	1,114	1.9%
20.4%		0.0%	9,837	15.2%		0.0%		0.0%		0.0%	1,534	2.3%
20.8%		0.0%	8,917	16.8%		0.0%		0.0%		0.0%	1,459	2.7%
23.1%	35,906	2.5%	193,674	13.5%	11,281	0.8%	11,707	0.8%	22,030	1.5%	35,176	2.4%
11.2%		0.0%	20,221	24.2%		0.0%	732	0.9%		0.0%	1,836	2.2%
16.3%		0.0%	12,343	20.5%		0.0%	651	1.1%		0.0%	1,500	2.4%
19.6%		0.0%	15,924	19.5%		0.0%	1,023	1.3%		0.0%	2,308	2.8%
21.2%		0.0%	11,204	16.0%		0.0%	1,076	1.5%		0.0%	1,940	2.7%
17.7%	9,136	11.6%	9,465	12.1%		0.0%	751	1.0%		0.0%	1,875	2.3%
23.3%		0.0%	13,558	17.9%		0.0%	1,065	1.4%		0.0%	1,871	2.4%
23.9%		0.0%	8,834	14.8%		0.0%	647	1.1%		0.0%	1,330	2.2%
18.8%	9,136	1.8%	91,549	18.0%	0	0.0%	5,945	1.2%	0	0.0%	12,660	2.4%
0.0%		0.0%	24,548	13.4%		0.0%	4,300	2.3%		0.0%	5,457	2.9%
19.2%		0.0%	12,018	11.1%		0.0%		0.0%		0.0%	2,614	2.4%
16.2%		0.0%	10,410	12.4%		0.0%	12,390	14.7%	12,040	14.3%	1,773	2.1%
24.8%		0.0%	22,926	15.3%		0.0%		0.0%		0.0%	4,794	3.1%
0.0%		0.0%	8,022	9.1%		0.0%		0.0%	20,169	23.0%	1,622	1.8%
21.7%		0.0%	13,038	14.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2,266	2.4%
17.1%		0.0%	3,128	11.1%		0.0%	2,491	8.8%	4,380	15.5%	595	2.1%
22.9%		0.0%	33,722	15.0%		0.0%	4,038	1.8%		0.0%	6,107	2.6%
0.0%		0.0%	2,970	14.2%		0.0%	252	1.2%		0.0%	538	2.5%
0.0%		0.0%	7,486	11.2%		0.0%		0.0%	13,011	19.4%	1,681	2.4%
0.0%		0.0%	10,447	12.9%		0.0%	13,568	16.8%		0.0%	2,403	2.9%
14.5%		0.0%	9,564	10.9%	2,427	2.8%	2,854	3.3%		0.0%	1,716	1.9%
0.0%		0.0%	4,670	11.2%		0.0%	7,102	17.0%		0.0%	1,121	2.6%
16.4%		0.0%	5,464	11.4%	3,299	6.9%	661	1.4%		0.0%	1,028	2.1%
16.9%		0.0%	6,348	13.4%	1,528	3.2%	726	1.5%		0.0%	1,088	2.2%
0.0%		0.0%	1,668	7.7%		0.0%		0.0%	7,813	36.2%	364	1.7%
12.8%		0.0%	3,519	10.3%	1,159	3.4%	534	1.6%		0.0%	810	2.3%
12.9%	0	0.0%	179,948	12.8%	8,413	0.6%	48,916	3.5%	57,413	4.1%	35,977	2.5%
16.0%		0.0%	1,591	10.8%		0.0%	1,271	8.6%	2,464	16.7%	273	1.8%
18.6%		0.0%	2,217	12.8%		0.0%		0.0%		0.0%	559	3.1%
20.9%	0	0.0%	3,764	12.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	847	2.7%
19.6%		0.0%	1,823	11.5%		0.0%		0.0%		0.0%	414	2.5%
22.2%		0.0%	1,941	12.9%		0.0%		0.0%		0.0%	433	2.8%
0.0%	0	0.0%	2,175	6.5%	0	0.0%	0	0.0%	13,593	40.7%	573	1.7%
0.0%		0.0%	482	9.9%		0.0%		0.0%	853	17.5%	92	1.9%
0.0%		0.0%	497	6.8%		0.0%		0.0%	2,540	34.8%	160	2.1%
0.0%		0.0%	507	7.7%		0.0%		0.0%	2,231	33.9%	112	1.7%
0.0%		0.0%	448	5.7%		0.0%		0.0%	3,330	42.3%	144	1.8%
0.0%		0.0%	241	3.6%		0.0%		0.0%	4,639	68.7%	65	1.0%
0.0%	0	0.0%	2,221	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	4,419	17.3%	581	2.2%
0.0%		0.0%	564	7.3%		0.0%		0.0%	1,345	17.4%	131	1.7%
0.0%		0.0%	446	9.6%		0.0%		0.0%	759	16.4%	93	2.0%
0.0%		0.0%	1,211	9.2%		0.0%		0.0%	2,315	17.5%	357	2.6%
0.0%	0	0.0%	1,944	10.3%	0	0.0%	2,340	12.4%	0	0.0%	490	2.5%
0.0%		0.0%	1,804	10.5%		0.0%	2,129	12.4%		0.0%	445	2.5%
0.0%		0.0%	140	8.2%		0.0%	211	12.4%		0.0%	45	2.6%
0.0%	0	0.0%	4,203	13.6%	0	0.0%	3,789	12.2%	0	0.0%	1,062	3.3%
0.0%		0.0%	1,428	15.4%		0.0%	1,354	14.6%		0.0%	339	3.5%
0.0%		0.0%	1,643	13.8%		0.0%	1,263	10.6%		0.0%	402	3.3%
0.0%		0.0%	571	12.0%		0.0%	655	13.7%		0.0%	149	3.0%
0.0%		0.0%	561	11.1%		0.0%	517	10.2%		0.0%	172	3.3%
17.6%	45,042	1.3%	483,286	13.7%	19,694	0.6%	73,968	2.1%	99,919	2.8%	88,198	2.4%

比例区市町村別

選挙区	投票の状況			有効投票	自民党		新進党		民主党
	有権者数	投票者数	投票率		得票数	得票率	得票数	得票率	得票数
鶴見区	199,906	106,610	53.33%	103,338	26,208	25.4%	28,828	27.9%	21,589
神奈川区	166,325	90,773	54.58%	87,882	22,499	25.6%	22,618	25.7%	21,266
西区	62,308	35,958	57.71%	34,698	10,579	30.5%	9,504	27.4%	6,532
南区	93,148	47,315	50.80%	45,491	13,442	29.5%	11,562	25.4%	9,740
港南区	158,099	87,648	55.44%	84,729	22,819	26.9%	23,803	28.1%	17,146
保土ヶ谷区	173,270	100,696	58.12%	98,134	24,410	24.9%	25,846	26.3%	23,158
旭区	157,001	87,205	55.54%	84,729	19,469	23.0%	23,599	27.9%	20,023
磯子区	198,648	112,764	56.77%	109,864	24,221	22.0%	29,651	27.0%	27,486
磯子区	134,093	74,105	55.26%	72,186	16,436	22.8%	18,280	25.3%	17,725
金沢区	159,428	92,574	58.07%	90,342	20,916	23.2%	22,066	24.4%	23,356
港北区	224,810	118,499	52.71%	115,429	29,404	25.5%	29,046	25.2%	29,678
緑区	115,727	62,529	54.03%	60,969	14,746	24.2%	16,007	26.3%	14,325
青葉区	191,144	108,175	56.59%	105,704	23,804	22.5%	25,882	24.5%	30,520
都筑区	91,702	48,372	52.75%	47,189	12,452	26.4%	12,575	26.6%	11,732
戸塚区	191,463	111,477	58.22%	108,653	22,600	20.8%	31,395	28.9%	27,277
栄区	97,574	58,968	60.43%	57,213	13,687	23.9%	13,321	23.3%	14,995
泉区	109,849	66,334	60.39%	64,345	14,870	23.1%	19,114	29.7%	14,489
瀬谷区	95,886	54,668	57.01%	52,997	12,039	22.7%	15,711	29.6%	11,282
横浜市合計	2,620,381	1,464,670	55.90%	1,423,892	344,601	24.2%	378,808	26.6%	342,319
川崎区	156,107	85,231	54.60%	82,782	22,348	27.0%	22,890	27.7%	11,987
幸区	110,293	61,696	55.94%	59,857	14,566	24.3%	17,673	29.5%	10,597
中原区	154,886	83,885	54.16%	81,743	19,986	24.4%	22,245	27.2%	17,522
高津区	137,182	71,870	52.39%	70,009	16,694	23.8%	19,859	28.4%	15,292
宮前区	146,738	80,332	54.75%	78,453	17,197	21.9%	21,621	27.6%	19,266
多摩区	145,888	77,798	53.33%	75,925	16,971	22.4%	19,492	25.7%	18,217
麻生区	103,484	61,218	59.16%	59,883	13,481	22.5%	14,877	24.8%	16,352
川崎市合計	954,578	522,030	54.69%	508,652	121,243	23.8%	138,657	27.3%	109,233
横須賀市	347,482	189,175	54.44%	182,641	56,554	31.0%	52,964	29.0%	30,944
平塚市	195,990	110,953	56.61%	106,911	32,252	30.2%	29,134	27.3%	21,393
鎌倉市	141,685	85,820	60.57%	83,269	20,106	24.1%	17,933	21.5%	21,251
藤沢市	289,051	154,996	53.62%	151,056	36,569	24.2%	37,467	24.8%	41,860
小田原市	156,102	89,421	57.28%	85,792	29,062	33.9%	21,020	24.5%	16,734
茅ヶ崎市	169,254	95,488	56.42%	93,182	22,642	24.3%	24,460	26.2%	22,520
逗子市	47,631	28,828	60.52%	27,828	7,299	26.2%	6,249	22.5%	7,242
相模原市	446,970	231,053	51.69%	224,607	51,928	23.1%	66,610	29.7%	51,852
三浦市	42,877	21,398	49.91%	20,379	7,648	37.5%	5,447	26.7%	2,567
秦野市	121,511	68,633	56.48%	66,086	20,869	31.6%	16,141	24.4%	12,497
厚木市	156,431	83,389	53.31%	80,638	26,409	32.8%	20,929	26.0%	14,662
大和市	161,930	89,294	55.14%	86,630	22,007	25.4%	26,777	30.9%	17,365
伊勢原市	74,318	42,993	57.85%	41,540	14,929	35.9%	9,352	22.5%	7,317
海老名市	87,898	48,884	55.61%	47,557	12,723	26.8%	12,794	26.9%	10,296
座間市	92,582	48,460	52.34%	47,229	12,191	25.8%	13,390	28.4%	9,956
南足柄市	34,136	21,945	64.29%	20,992	6,813	32.5%	4,790	22.8%	4,641
綾瀬市	62,005	34,814	56.15%	33,588	10,100	30.1%	10,467	31.2%	5,752
一般市合計	2,627,853	1,445,544	55.01%	1,399,925	390,101	27.9%	375,924	26.9%	298,849
三浦郡葉山町	25,016	15,029	60.08%	14,438	3,862	26.8%	3,350	23.2%	3,722
高座郡寒川町	35,834	17,899	49.95%	17,316	4,499	26.0%	5,652	32.6%	3,258
中郡	50,823	31,766	62.50%	30,630	9,830	32.1%	6,727	22.0%	6,992
大磯町	26,215	16,260	62.03%	15,646	5,183	33.1%	3,480	22.2%	3,519
二宮町	24,608	15,506	63.01%	14,984	4,647	31.0%	3,247	21.7%	3,473
足柄上郡	51,303	33,942	66.16%	32,117	11,040	34.4%	6,933	21.6%	7,466
中井町	7,888	4,966	62.96%	4,815	1,946	40.4%	1,058	22.0%	855
大井町	12,260	7,463	60.87%	7,113	2,517	35.4%	1,619	22.8%	1,547
松田町	10,415	6,684	64.18%	6,311	2,194	34.8%	1,455	23.1%	1,292
山北町	11,170	8,009	71.70%	7,479	2,788	37.3%	1,468	19.6%	1,586
開成町	9,570	6,820	71.26%	6,399	1,595	24.9%	1,333	20.8%	2,186
足柄下郡	45,243	26,162	57.83%	24,993	9,799	39.2%	6,521	26.1%	4,111
箱根町	13,997	7,879	56.29%	7,596	3,141	41.4%	2,124	28.0%	1,160
真鶴町	7,967	4,718	59.22%	4,484	1,591	35.5%	1,248	27.8%	789
湯河原町	23,279	13,565	58.27%	12,913	5,067	39.2%	3,149	24.4%	2,162
愛甲郡	34,574	19,332	55.91%	18,577	7,015	37.8%	5,559	29.9%	2,409
愛川町	32,031	17,588	54.91%	16,922	6,239	36.9%	5,184	30.6%	2,202
清川町	2,543	1,744	68.58%	1,655	776	46.9%	375	22.7%	207
津久井郡	57,294	32,050	55.94%	30,815	10,979	35.6%	7,796	25.3%	4,775
城山町	17,568	9,600	54.64%	9,303	2,738	29.4%	2,500	26.9%	1,775
津久井町	23,004	12,301	53.47%	11,788	4,088	34.7%	3,181	27.0%	1,683
相模湖町	8,127	4,928	60.64%	4,745	1,898	40.0%	1,073	22.6%	676
藤野町	8,595	5,221	60.74%	4,979	2,255	45.3%	1,042	20.9%	641
県合計	6,502,899	3,608,424	55.49%	3,501,355	912,969	26.1%	935,927	26.7%	783,134

96年10月 (社)神奈川県地方自治研究センター

得票率	社会民主党		共産党		新社会党		自由連合		無効票	
	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	無効票数	無効率
20.9%	7,290	7.1%	16,675	16.1%	1,804	1.7%	944	0.9%	3,217	3.0%
24.2%	6,597	7.5%	12,479	14.2%	1,689	1.9%	734	0.8%	2,836	3.1%
18.8%	2,617	7.5%	4,471	12.9%	665	1.9%	330	1.0%	1,246	3.5%
21.4%	3,711	8.2%	5,928	13.0%	621	1.4%	487	1.1%	1,793	3.8%
20.2%	6,440	7.6%	12,054	14.2%	1,613	1.9%	854	1.0%	2,869	3.3%
23.6%	7,770	7.9%	13,982	14.2%	2,032	2.1%	936	1.0%	2,537	2.5%
23.6%	7,177	8.5%	12,445	14.7%	1,222	1.4%	794	0.9%	2,438	2.8%
25.0%	9,960	9.1%	15,879	14.5%	1,539	1.4%	1,128	1.0%	2,855	2.5%
24.6%	7,795	10.8%	10,335	14.3%	1,031	1.4%	584	0.8%	1,892	2.6%
25.9%	9,015	10.0%	12,976	14.4%	1,258	1.4%	755	0.8%	2,203	2.4%
25.7%	8,482	7.3%	15,980	13.8%	1,572	1.4%	1,267	1.1%	3,035	2.6%
23.5%	5,568	9.1%	8,818	14.5%	898	1.5%	607	1.0%	1,545	2.5%
28.9%	9,659	9.1%	13,569	12.8%	1,298	1.2%	972	0.9%	2,407	2.2%
24.9%	3,461	7.3%	5,836	12.4%	633	1.3%	500	1.1%	1,164	2.4%
25.1%	8,767	8.1%	16,289	15.0%	1,372	1.3%	953	0.9%	2,776	2.5%
26.2%	5,089	8.9%	7,923	13.8%	806	1.4%	1,392	2.4%	1,714	2.9%
22.5%	5,219	8.1%	9,240	14.4%	842	1.3%	571	0.9%	1,965	3.0%
21.3%	4,495	8.5%	8,075	15.2%	782	1.5%	613	1.2%	1,724	3.2%
24.0%	119,112	8.4%	202,954	14.3%	21,677	1.5%	14,421	1.0%	40,216	2.7%
14.5%	5,321	6.4%	18,397	22.2%	1,015	1.2%	824	1.0%	2,438	2.9%
17.7%	4,357	7.3%	11,205	18.7%	892	1.5%	567	0.9%	1,819	2.9%
21.4%	5,551	6.8%	14,485	17.7%	1,113	1.4%	841	1.0%	2,125	2.5%
21.8%	4,871	7.0%	11,671	16.7%	903	1.3%	719	1.0%	1,848	2.6%
24.6%	7,068	9.0%	11,466	14.6%	1,078	1.4%	757	1.0%	1,861	2.3%
24.0%	5,660	7.5%	13,808	18.2%	1,059	1.4%	718	0.9%	1,834	2.4%
27.3%	4,525	7.6%	9,303	15.5%	802	1.3%	543	0.9%	1,320	2.2%
21.5%	37,353	7.3%	90,335	17.8%	6,862	1.3%	4,969	1.0%	13,245	2.5%
16.9%	13,991	7.7%	23,457	12.8%	2,505	1.4%	2,226	1.2%	6,408	3.4%
20.0%	7,746	7.2%	13,843	12.9%	1,406	1.3%	1,137	1.1%	3,976	3.6%
25.5%	5,830	7.0%	12,435	14.9%	1,132	1.4%	4,582	5.5%	2,463	2.9%
27.7%	11,241	7.4%	20,486	13.6%	1,944	1.3%	1,489	1.0%	3,863	2.5%
19.5%	6,309	7.4%	10,408	12.1%	1,224	1.4%	1,035	1.2%	3,613	4.0%
24.2%	7,391	7.9%	13,182	14.1%	1,309	1.4%	1,678	1.8%	2,256	2.4%
26.0%	2,107	7.6%	3,727	13.4%	167	0.6%	1,037	3.7%	993	3.4%
23.1%	76,132	7.2%	32,449	14.4%	3,024	1.3%	2,612	1.2%	6,340	2.7%
12.6%	1,086	5.3%	3,177	15.6%	209	1.0%	245	1.2%	1,001	4.7%
18.9%	5,251	7.9%	7,953	12.0%	1,005	1.5%	2,370	3.6%	2,501	3.6%
18.2%	4,801	6.0%	9,842	12.2%	984	1.2%	3,011	3.7%	2,733	3.3%
20.0%	5,642	6.5%	11,198	12.9%	1,642	1.9%	1,999	2.3%	2,625	2.9%
17.6%	2,728	6.6%	4,893	11.8%	544	1.3%	1,777	4.3%	1,443	3.4%
21.6%	3,251	6.8%	6,324	13.3%	1,586	3.3%	583	1.2%	1,312	2.7%
21.1%	3,250	6.9%	6,916	14.6%	922	2.0%	604	1.3%	1,216	2.5%
22.1%	1,763	8.4%	2,399	11.4%	354	1.7%	232	1.1%	948	4.3%
17.1%	2,255	6.7%	3,825	11.4%	707	2.1%	482	1.4%	1,219	3.5%
21.3%	100,774	7.2%	186,514	13.3%	20,664	1.5%	27,099	1.9%	44,910	3.1%
25.8%	937	6.5%	1,923	13.3%	146	1.0%	498	3.4%	589	3.9%
18.8%	1,352	7.8%	2,125	12.3%	214	1.2%	216	1.2%	580	3.2%
22.8%	2,351	7.7%	4,066	13.3%	398	1.3%	266	0.9%	1,129	3.6%
22.5%	1,154	7.4%	1,992	12.7%	185	1.2%	133	0.9%	614	3.8%
23.2%	1,197	8.0%	2,074	13.8%	213	1.4%	133	0.9%	515	3.3%
23.2%	2,567	8.0%	3,158	9.8%	520	1.6%	433	1.3%	1,817	5.4%
17.8%	290	6.0%	536	11.1%	61	1.3%	69	1.4%	151	3.0%
21.7%	510	7.2%	692	9.7%	123	1.7%	105	1.5%	349	4.7%
20.5%	531	8.4%	683	10.8%	76	1.2%	80	1.3%	372	5.6%
21.2%	679	9.1%	710	9.5%	147	2.0%	101	1.4%	526	6.6%
34.2%	557	8.7%	537	8.4%	113	1.8%	78	1.2%	419	6.1%
16.4%	1,416	5.7%	2,587	10.4%	291	1.2%	268	1.1%	1,160	4.4%
15.3%	333	4.4%	681	9.0%	71	0.9%	86	1.1%	282	3.6%
17.6%	266	5.9%	500	11.2%	56	1.2%	34	0.8%	232	4.9%
16.7%	817	6.3%	1,406	10.9%	164	1.3%	148	1.1%	646	4.8%
13.0%	909	4.9%	1,854	10.0%	176	0.9%	655	3.5%	751	3.9%
13.0%	827	4.9%	1,713	10.1%	164	1.0%	593	3.5%	662	3.8%
12.5%	82	5.0%	141	8.5%	12	0.7%	62	3.7%	89	5.1%
15.5%	2,139	6.9%	3,758	12.2%	408	1.3%	960	3.1%	1,224	3.8%
19.1%	703	7.6%	1,196	12.9%	124	1.3%	267	2.9%	295	3.1%
14.3%	793	6.7%	1,521	12.9%	158	1.3%	364	3.1%	508	4.1%
14.2%	344	7.2%	511	10.8%	57	1.2%	186	3.9%	180	3.7%
12.9%	299	6.0%	530	10.6%	69	1.4%	143	2.9%	241	4.6%
22.4%	268,910	7.7%	499,274	14.3%	51,356	1.5%	49,785	1.4%	105,621	2.9%

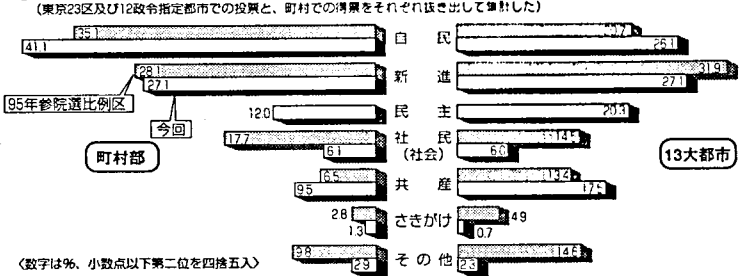
【資料3】各政党の勢力図

新制度が集票構造あぶり出す

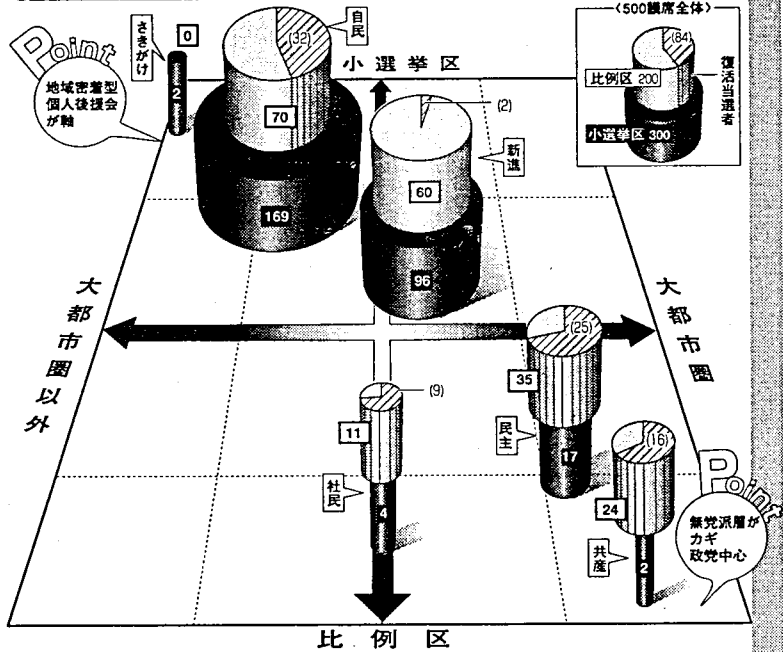
小選挙区が比例区か。都市か地方か。今回繰返選挙の結果をみると、各党がどこに目標を置いていたかがはっきりしてくる。自民党は、地方の小選挙区で圧倒的な強さを発揮。一方、民主党

小選挙区が比例区か。都市か地方か。今回繰返選挙の結果をみると、各党がどこに目標を置いていたかがはっきりしてくる。自民党は、地方の小選挙区で圧倒的な強さを発揮。一方、民主党

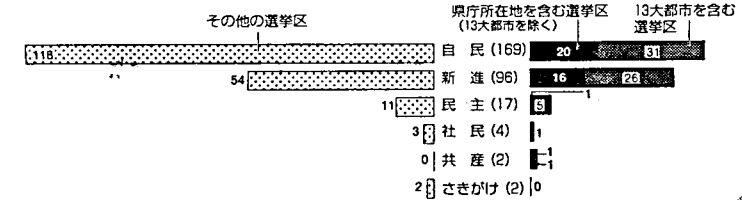
都市規模で比較した各政党の得票率 (比例区)



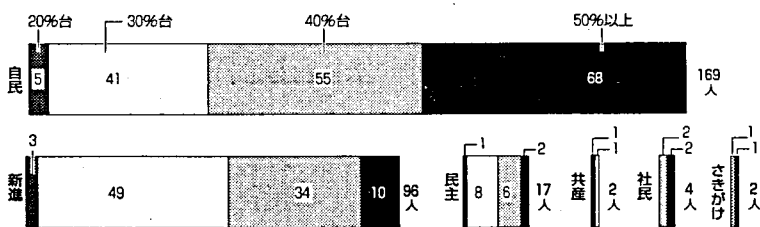
こうなった各党の足場



都市規模別に見た主な政党の獲得議席 (小選挙区)



主な政党の小選挙区当選者の得票率分布



1996年12月25日

自治研かながわ月報第55号 (1996年12月号, 通算120号)

発行所	社団法人 神奈川県地方自治研究センター
発行人	横山桂次 編集人 上林得郎 定価1部 500円
〒232	横浜市南区高根町1-3 神奈川県地域労働文化会館4F
	☎045(251)9721(代表) FAX 045(251)3199
振替口座	労働金庫本店 1365-1195174横浜銀行市庁舎出張所 317-709629

会員になるには

1. 誰でも会員になれます。
2. 申込書は自治研センター事務局にあります。
会費は個人会員月1,000円、賛助会員月500円のどちらかを選び、半年または1年分をそえてお申し込みください。
3. 詳細は自治研センター事務局 ☎045 (251) 9721 へご連絡ください。

会員の特典

1. 自治研センターの「自治研かながわ月報」が隔月送られます。
2. 「月刊自治研」(自治労本部自治研推進委員会発行・A5版・120～150ページ定価500円)が毎月無料で購読できます。
3. 自治研センターの資料集が活用でき、調査研究会などに参加できます。